

令和7年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 柔道整復学科（夜間部）

氏名	科目区分	必修選択の別	科目名	授業形式	設定学年	設定時期	時間数	単位数	内容	経歴		役職	業務内容・専門分野等	免許・資格	
										年月	職歴 （一部抜粋）			年月	免許・資格名 （一部抜粋）
太田 峯兵	専門	必修	外傷の保存療法	講義	第3学年	前期	20	1	後療法講義	平成30年1月～令和2年3月	坂本接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成26年4月	柔道整復師免許
	専門	必修	基礎柔道整復学Ⅰa	講義	第1学年	前期	40	2	骨折総論講義						
匂坂 文洋	専門	必修	物理療法機器の取扱い	講義	第3学年	前期	20	1	物理療法取扱講義	平成18年4月～平成21年3月	たねなが鍼灸整骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成18年4月	柔道整復師免許
										平成24年4月～平成31年3月	専門学校 浜松医療学院		教育補助員、付属接骨院で柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成24年4月	はり師
										令和2年4月～令和5年2月	たねなが鍼灸整骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成24年4月	きゅう師免許
														平成24年5月	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
森山伸一	専門基礎	必修	柔道1	実習	第1学年	後期	40	1	柔道実習	平成28年4月～令和元年12月	日本工学院八王子専門学校 医療カレッジ		教育補助員、付属接骨院で柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成28年4月	柔道整復師免許
	専門基礎	必修	柔道3	実習	第3学年	前期	40	1	柔道実習	令和2年1月～令和5年3月	常葉大学		健康柔道整復学科助手、付属接骨院で柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	令和4年4月	柔道3段
	専門	必修	基礎柔道整復学Ⅰb	講義	第1学年	前期	40	2	診察・整復法・後療法・指導管理・外傷予防講義						
鬼頭 健介	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅰa	講義	第1学年	前期	40	2	傷害発生時の評価・測定、テーピング、ストレッチ、エクササイズ	平成14年4月～平成15年9月	愛知県立安城南高等学校 硬式野球部 トレーナー		高校野球部トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成12年3月	中学校・高等学校教諭1種免許状（保健体育）
	基礎	必修	スポーツ・健康概論Ⅱa	講義	第2学年	前期	40	2	体力学総論、救急救命法、スポーツバイオメカニクス、運動学習と指導法講義	平成15年10月～平成30年12月	株式会社 読売巨人軍 トレーナー		巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成15年6月	はり師免許師
														平成15年6月	きゅう師免許
														平成15年6月	あん摩マッサージ指圧師免許

小松 敏美	専門 基礎	必修	職業倫理	講義	第1学年	前期	20	1	職業倫理講義	平成6年4月～現在	日漢堂整骨院	院長（開設者）	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成6年4月	柔道整復師免許
合計							300	13							

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	スポーツ・健康概論 I a	授業方法	講 義	講師名	鬼頭健介
授業目標	コンディショニングの領域に位置付けられているテーピングの理論と実技を機能解剖学の視点を交えながら学び、柔道整復師ならびにトレーニング指導者、機能訓練士としてスポーツ現場、医療現場、介護現場など幅広い現場で活かせる技術を養う。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成 15 年 10 月～平成 30 年 12 月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	スポーツトレーナーの役割について			
	3	テーピング概要			
	4	上肢のテーピング(手指)			
	5	上肢のテーピング(手関節・肘関節)			
	6	上肢のテーピング(肩関節)			
	7	下肢のテーピング(足部)			
	8	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト・ヒールロック)①			
	9	〃 (足関節:バスケットウィーブ固定)②			
	10	〃 (足関節:まとめ)③:小テスト			
	11	下肢のテーピング(膝関節:Xサポート)①			
	12	〃 (膝関節:内側側副靱帯損傷)②			
	13	〃 (膝関節:前十字靱帯損傷)③:小テスト			
	14	下肢のテーピング(下腿部・大腿部)			
	15	キネシオテーピング①			
	16	キネシオテーピング②			
	17	テーピング総合実習:小テスト			
	18	総合復習			
	19	定期試験			
	20	解説・総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	定期試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー旧テキスト 6 巻			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱa	授業方法	講 義	講師名	鬼頭健介
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。グループワークの中で発表の準備を通じて、より深い知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 15 年 10 月～平成 30 年 12 月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス/グループワークの説明			
	2	体力学総論			
	3	対象と目的に応じた栄養摂取			
	4	運動と栄養の基礎理論			
	5	運動と心理 基礎理論			
	6	救急救命法			
	7	スポーツ傷害			
	8	スポーツバイオメカニクス			
	9	前半まとめ			
	10	グループワーク			
	11	グループワーク発表/子どものスポーツ			
	12	グループワーク発表/女性アスリート			
	13	グループワーク発表/プロテイン			
	14	自重トレ・チューブエクササイズ①			
	15	自重トレ・チューブエクササイズ②			
	16	運動学習と指導法			
	17	後半まとめ			
	18	総復習			
	19	確認試験			
	20	試験解説・ポイント説明・おさらい			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / ☑発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	外傷の保存療法	授業方法	講 義	講師名	太田 峯兵
授業目標	保存療法の基本を理解し固定法を学ぶ。固定に使用する材料と利用方法を理解し、患者への指導管理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 30 年 1 月～令和 2 年 3 月坂本接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫等の外傷を扱う。それらの経験を活かし柔道整復術に関わる講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション			
	2	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	3	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	4	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	5	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	6	外傷保存 P141～149			
	7	外傷保存 P141～149			
	8	外傷保存 P141～149			
	9	外傷保存 P141～149			
	10	外傷の保存			
	11	外傷の保存			
	12	外傷の保存			
	13	外傷の保存			
	14	外傷の保存			
	15	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	16	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	17	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	18	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	19	前期定期試験			
	20	解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席があったら減点(1 回につき遅刻・早退、白衣忘れ -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	基礎柔道整復学 I a	授業方法	講 義	講師名	太田 峽兵
授業目標	骨の損傷について基本事項を学ぶ。骨折の分類・症状・合併症及び後遺症の特徴と症状、骨折整復法と指導管理について理解する。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 30 年 1 月～令和 2 年 3 月坂本接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫等の外傷を扱う。それらの経験を活かし柔道整復術に関わる講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復理論 総論			
	2	人体に加わる力・損傷時に加わる力・痛みの基礎 P12～19			
	3	骨損傷 P20～23			
	4	骨折の分類 P23～26			
	5	骨折の分類 P26～31			
	6	骨折の分類 ワーク			
	7	復 習・小テスト			
	8	骨折の症状 P31～34			
	9	骨折の合併症 P34～36			
	10	骨折の合併症 P36～38			
	11	復 習 ・小テスト			
	12	小児骨折と高齢者骨折 P39～42			
	13	小児骨折と高齢者骨折 P39～42			
	14	骨折の癒合日数 治癒経過 P42～45			
	15	骨折の予後 骨折の治癒に影響を与える因子 P45～46			
	16	復 習 ・小テスト			
	17	前期のまとめ①			
	18	前期のまとめ②			
	19	前期 定期試験			
	20	解 説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席があったら減点(1 回につき遅刻・早退 -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	基礎柔道整復学 I b	授業方法	講 義	講師名	森山 伸一
授業目標	柔道整復学理論の診察・整復法や後療法、指導管理、外傷予防についての要点を学び国家試験を合格できる基準まで習得することを目標とする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 28 年 4 月～令和 5 年 3 月専門学校や大学の付属接骨院で柔道整復師として働いた経験を活かし診察・整復法や後療法、指導管理、外傷予防について教授する。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 診察			
	2	診察			
	3	整復法			
	4	後療法①(手技・運動療法)			
	5	後療法②(手技・運動療法)			
	6	後療法③(手技・運動療法)			
	7	後療法④(手技・運動療法)			
	8	後療法①(物理療法)			
	9	後療法②(物理療法)			
	10	後療法③(物理療法)			
	11	後療法④(物理療法)			
	12	後療法⑤(物理療法)			
	13	後療法⑥(物理療法)			
	14	後療法⑦(物理療法)			
	15	後療法⑧(物理療法)			
	16	指導管理			
	17	外傷予防			
	18	総復習			
	19	前期定期試験			
	20	解答・解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂 7 版			
	配布資料の有無	㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	柔 道 1	授業方法	実 習	講師名	森山 伸一
授業目標	認定実技試験に沿った、基本的な礼法・受け身・投げ技の動作を正しく行えるようにすることを目標とする。また、柔道実技を通して柔道精神である「精力善用」「自他共栄」を修得する。				
実務経験のある教員等 による授業科目	平成 28 年 4 月～令和 5 年 3 月専門学校や大学の付属接骨院で柔道整復師として働いた経験を活かし柔道精神である「精力善用」「自他共栄」を教授する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーションと柔道の歴史			
	2	柔道の歴史			
	3	柔道着の着付け 礼法(立礼・座礼) 立ち方 座り方 歩み			
	4	柔道着の着付け 礼法(立礼・座礼) 立ち方 座り方 歩みの復習 受け身			
	5	間合いの取り方 前受け身 後方受け身 側方受け身			
	6	前受け身 後方受け身 側方受け身の復習 三點前回り受け身			
	7	前受け身 後方受け身 側方受け身の復習 三點前回り受け身の復習			
	8	今まで受け身の復習 前回り受け身			
	9	大腰のやり方 前回り受け身			
	10	小テスト(柔道の筆記試験 30 分) 大腰の復習 前回り受け身 乱取り			
	11	体落としのやり方 前回り受け身			
	12	体落としの復習 前回り受け身			
	13	背負い投げ 大内刈り 小内刈りのやり方 前回り受け身			
	14	背負い投げ 大内刈り 小内刈りのやり方 前回り受け身 乱取り			
	15	投げ技の復習 前回り受け身 乱取り			
	16	受け身の復習 投げの型①手技(浮落) 乱取り			
	17	受け身の復習 投げの型①手技(浮落)の復習 乱取り			
	18	まとめ 復習			
	19	前期試験(実技試験)			
	20	解説・採点のポイント			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無		有 ・ ⑥		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	柔道3	授業方法	実 習	講師名	森山 伸一
授業目標	柔道に親しむとともに、公益財団法人柔道整復研修試験財団による認定実技審査のうち柔道実技試験に合格できるレベルの素養を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 28 年 4 月～令和 5 年 3 月専門学校や大学の付属接骨院で柔道整復師として働いた経験を活かし柔道精神である「精力善用」「自他共栄」を教授する。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	姿勢、礼法 柔道の歴史、嘉納師範の考え・言葉、遺訓、講道館柔道の目的			
	2	受け身 後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身			
	3	投技の基本動作 歩き方、組み方、崩し			
	4	投技の基本動作 歩き方、組み方、崩し			
	5	投の形 手技①浮落			
	6	投の形 手技②背負投			
	7	投の形 手技③肩車			
	8	投の形 腰技①浮腰			
	9	投の形 腰技②払腰			
	10	投の形 腰技③釣込腰			
	11	投の形 足技①送足払			
	12	投の形 足技②支釣込足			
	13	投の形 足技③内股			
	14	投の形 通し稽古①			
	15	投の形 通し稽古②			
	16	投の形 通し稽古③			
	17	投の形 通し稽古④			
	18	総まとめ①			
	19	総まとめ②			
	20	総まとめ③			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 / ☒ その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / ☒ その他(化粧、過度の整髪料や香水、装飾品、不衛生は厳禁とする。2 度目の指摘を受けた場合は欠席扱いとし、評価の対象としない。)			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	公益社団法人全国柔道整復学校協会 柔道			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	職業倫理	授業方法	講 義	講師名	小松敏美
授業目標	地域医療と社会貢献を担う柔道整復師としての育成を目的とする。日本国民として医療人としての倫理・マナー、患者様との接し方、コンプライアンス(法令遵守)を基本とする職業倫理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成 6 年 4 月～現在 日漢堂接骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。院長経験を活かしコンプライアンス(法令遵守)を基本とする職業倫理講義を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復師とは 倫理について 4/8			
	2	柔道整復師と職業倫理について 4/15			
	3	柔道整復師の業務と心得 (柔整理論 P7～10) 4/22			
	4	柔道整復師倫理綱領 医療倫理の 4 原則 5/13			
	5	柔道整復師と柔道 (歴史 理念 教育的効果) ① 5/20			
	6	② 5/27			
	7	倫理 コミュニケーション ① 6/3			
	8	② 6/10			
	9	患者の権利 6/17			
	10	基本的人権(平等権と生存権) 患者の権利(リスボン宣言) 6/24			
	11	医療選択の自由と自己決定権 7/1			
	12	リスクマネジメント 説明と同意 7/8			
	13	医療事故と医療過誤 ① 7/15			
	14	② 7/22			
	15	診察 診察時の注意点 7/29			
	16	診察手順と施術録 8/19			
	17	前期のまとめ① 8/26			
	18	前期のまとめ② 9/2			
	19	前期定期試験 9/9			
	20	解説 9/16			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復理論 7 版 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	物理療法機器の 取扱い	授業方法	講 義	講師名	匂坂 文洋
授業目標	物理療法機器の取り扱いにおいて理解を深め、臨床において適切な判断ができるような知識を習得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 18 年～令和5年までの鍼灸整骨院や専門学校での柔道整復師や教員補助員としての経験を活かし、物理療法機器の取り扱いにおいて理解を深め、臨床において適切な判断ができるような知識を教授する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 後療法について			
	2	手技療法・運動療法について			
	3	手技療法・運動療法について			
	4	手技療法・運動療法について			
	5	手技療法・運動療法について			
	6	物理療法、電気療法について			
	7	電気療法について			
	8	温熱療法について			
	9	温熱療法について			
	10	温熱療法について			
	11	温熱療法について			
	12	寒冷療法について			
	13	寒冷療法について			
	14	寒冷療法について			
	15	寒冷療法について			
	16	牽引療法について			
	17	牽引療法について			
	18	まとめ			
	19	定期試験			
	20	定期試験解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学理論編			
	配布資料の有無	①・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する (100点満点で点数化)						
学科名	柔道整復学科 夜	学年	1	学生数	17	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	0	0	2	7	7	1
下位1／4に該当する人数 4人						
下位1／4に該当する指標の数値 74.3点以下						

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	解剖学 I a	授業方法	講 義	講師名	中右 かよ
授業目標	単なる用語の暗記ではなく、人体の構造に興味を持ち、 医療従事者として、臨床に即応する人体解剖の知識を習得してほしい。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	消化器 __ 総論・腹膜の構造			
	3	消化器 __ 口・唾液腺・咽頭			
	4	消化器 __ 食道・胃			
	5	消化器 __ 小腸・大腸			
	6	消化器 __ 肝臓			
	7	消化器 __ 胆嚢・膵臓			
	8	循環器 __ 体循環と肺循環			
	9	循環器 __ 心臓の位置と構造(弁と心臓壁・心膜)			
	10	循環器 __ 刺激伝導系・心臓の血管と神経			
	11	呼吸器 __ 胸膜の構造・外鼻			
	12	中間試験（講義1～7・消化器）7/4予定 60 点以下追試対象			
	13	呼吸器 __ 咽頭・喉頭			
	14	呼吸器 __ 気管支・肺			
	15	感覚器系 __ 外皮・味覚器・嗅覚器			
	16	感覚器系 __ 視覚器			
	17	感覚器系 __ 聴覚器・平衡器			
	18	前期まとめ			
	19	前期定期試験			
	20	解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☑中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席状況、授業態度は加算とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会監修解剖学改定第2版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	基礎柔整 I a	授業方法	講 義	講師名	太田 峽兵
授業目標	骨の損傷について基本事項を学ぶ。骨折の分類・症状・合併症及び後遺症の特徴と症状、骨折整復法と指導管理について理解する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復理論 総論			
	2	人体に加わる力・損傷時に加わる力・痛みの基礎 P12～19			
	3	骨損傷 P20～23			
	4	骨折の分類 P23～26			
	5	骨折の分類 P26～31			
	6	骨折の分類 ワーク			
	7	復 習・小テスト			
	8	骨折の症状 P31～34			
	9	骨折の合併症 P34～36			
	10	骨折の合併症 P36～38			
	11	復 習 ・小テスト			
	12	小児骨折と高齢者骨折 P39～42			
	13	小児骨折と高齢者骨折 P39～42			
	14	骨折の癒合日数 治癒経過 P42～45			
	15	骨折の予後 骨折の治癒に影響を与える因子 P45～46			
	16	復 習 ・小テスト			
	17	前期のまとめ①			
	18	前期のまとめ②			
	19	前期 定期試験			
	20	解 説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席があったら減点(1 回につき遅刻・早退 -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	スポーツ・健康概論 I a	授業方法	講 義	講師名	鬼頭健介
授業目標	コンディショニングの領域に位置付けられているテーピングの理論と実技を機能解剖学の視点を交えながら学び、柔道整復師ならびにトレーニング指導者、機能訓練士としてスポーツ現場、医療現場、介護現場など幅広い現場で活かせる技術を養う。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 15 年 10 月～平成 30 年 12 月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	スポーツトレーナーの役割について			
	3	テーピング概要			
	4	上肢のテーピング(手指)			
	5	上肢のテーピング(手関節・肘関節)			
	6	上肢のテーピング(肩関節)			
	7	下肢のテーピング(足部)			
	8	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト・ヒールロック)①			
	9	〃 (足関節:バスケットウィーブ固定)②			
	10	〃 (足関節:まとめ)③:小テスト			
	11	下肢のテーピング(膝関節:Xサポート)①			
	12	〃 (膝関節:内側側副靱帯損傷)②			
	13	〃 (膝関節:前十字靱帯損傷)③:小テスト			
	14	下肢のテーピング(下腿部・大腿部)			
	15	キネシオテーピング①			
	16	キネシオテーピング②			
	17	テーピング総合実習:小テスト			
	18	総合復習			
	19	定期試験			
	20	解説・総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	定期試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー旧テキスト 6 巻			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	基礎柔道整復学 I a	授業方法	講 義	講師名	太田 峽兵
授業目標	骨の損傷について基本事項を学ぶ。骨折の分類・症状・合併症及び後遺症の特徴と症状、骨折整復法と指導管理について理解する。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 30 年 1 月～令和 2 年 3 月坂本接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫等の外傷を扱う。それらの経験を活かし柔道整復術に関わる講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復理論 総論			
	2	人体に加わる力・損傷時に加わる力・痛みの基礎 P12～19			
	3	骨損傷 P20～23			
	4	骨折の分類 P23～26			
	5	骨折の分類 P26～31			
	6	骨折の分類 ワーク			
	7	復 習・小テスト			
	8	骨折の症状 P31～34			
	9	骨折の合併症 P34～36			
	10	骨折の合併症 P36～38			
	11	復 習 ・小テスト			
	12	小児骨折と高齢者骨折 P39～42			
	13	小児骨折と高齢者骨折 P39～42			
	14	骨折の癒合日数 治癒経過 P42～45			
	15	骨折の予後 骨折の治癒に影響を与える因子 P45～46			
	16	復 習 ・小テスト			
	17	前期のまとめ①			
	18	前期のまとめ②			
	19	前期 定期試験			
	20	解 説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席があったら減点(1 回につき遅刻・早退 -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	基礎柔道整復学 I b	授業方法	講 義	講師名	森山 伸一
授業目標	柔道整復学理論の診察・整復法や後療法、指導管理、外傷予防についての要点を学び国家試験を合格できる基準まで習得することを目標とする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 28 年 4 月～令和 5 年 3 月専門学校や大学の付属接骨院で柔道整復師として働いた経験を活かし診察・整復法や後療法、指導管理、外傷予防について教授する。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 診察			
	2	診察			
	3	整復法			
	4	後療法①(手技・運動療法)			
	5	後療法②(手技・運動療法)			
	6	後療法③(手技・運動療法)			
	7	後療法④(手技・運動療法)			
	8	後療法①(物理療法)			
	9	後療法②(物理療法)			
	10	後療法③(物理療法)			
	11	後療法④(物理療法)			
	12	後療法⑤(物理療法)			
	13	後療法⑥(物理療法)			
	14	後療法⑦(物理療法)			
	15	後療法⑧(物理療法)			
	16	指導管理			
	17	外傷予防			
	18	総復習			
	19	前期定期試験			
	20	解答・解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂 7 版			
	配布資料の有無	㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	基礎柔道整復学Ⅰc	授業方法	講 義	講師名	浦田 輝彦
授業目標	関節の損傷をはじめとし、筋肉、腱、神経の損傷について学習する。また、理解に必要となる解剖学的な基礎知識も同時に取り扱う。本授業を通して、柔道整復師の業務に関わりの深い軟部組織損傷の概要を学習し、各論学習のための基礎知識を理解する。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス・関節の損傷〔捻挫〕①			
	2	関節の損傷〔捻挫〕②			
	3	関節の損傷〔捻挫〕③			
	4	関節の損傷〔捻挫〕④			
	5	筋の損傷①			
	6	筋の損傷②			
	7	筋の損傷③			
	8	腱の損傷①			
	9	腱の損傷②			
	10	腱の損傷③			
	11	末梢神経の損傷①			
	12	末梢神経の損傷②			
	13	末梢神経の損傷③			
	14	脱臼総論①			
	15	脱臼総論②			
	16	脱臼総論③			
	17	総復習			
	18	試験前学習			
	19	期末試験			
	20	解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復理論編第 7 版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	社会科学概論	授業方法	講 義	講師名	永田まゆみ
授業目標	様々な法律の基礎となる、日本国憲法や日々の生活と密接に関係をする民法を中心に、政治・経済等の法律の仕組みを理解をする。結果として、柔道整復師となった後、一社会人としての個々の立場・役割・法律の遵守など、法律を通じての社会人としてのマナーなどを得とすることを目標とする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	社会科学概論とは・自己紹介			
	2	法律入門・法律の種類、解釈・憲法とは			
	3	憲法・民法・関係法規			
	4	憲法・民法・関係法規			
	5	憲法・民法・関係法規			
	6	憲法・民法・関係法規			
	7	憲法・民法・関係法規			
	8	憲法・民法・関係法規			
	9	憲法・民法・関係法規			
	10	憲法・民法・関係法規			
	11	憲法・民法・関係法規			
	12	憲法・民法・関係法規			
	13	憲法・民法・関係法規			
	14	憲法・民法・関係法規			
	15	憲法・民法・関係法規			
	16	憲法・民法・関係法規			
	17	憲法・民法・関係法規			
	18	前期講義まとめ			
	19	前期試験			
	20	前期試験 解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	日本国憲法条文・関係法規テキスト			
	配布資料の有無	㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	職業倫理	授業方法	講 義	講師名	小松敏美
授業目標	地域医療と社会貢献を担う柔道整復師としての育成を目的とする。日本国民として医療人としての倫理・マナー、患者様との接し方、コンプライアンス(法令遵守)を基本とする職業倫理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成 6 年 4 月～現在 日漢堂接骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。院長経験を活かしコンプライアンス(法令遵守)を基本とする職業倫理講義を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 柔道整復師とは 倫理について 4/8			
	2	柔道整復師と職業倫理について 4/15			
	3	柔道整復師の業務と心得 (柔整理論 P7～10) 4/22			
	4	柔道整復師倫理綱領 医療倫理の 4 原則 5/13			
	5	柔道整復師と柔道 (歴史 理念 教育的効果) ① 5/20			
	6	② 5/27			
	7	倫理 コミュニケーション ① 6/3			
	8	② 6/10			
	9	患者の権利 6/17			
	10	基本的人権(平等権と生存権) 患者の権利(リスボン宣言) 6/24			
	11	医療選択の自由と自己決定権 7/1			
	12	リスクマネジメント 説明と同意 7/8			
	13	医療事故と医療過誤 ① 7/15			
	14	② 7/22			
	15	診察 診察時の注意点 7/29			
	16	診察手順と施術録 8/19			
	17	前期のまとめ① 8/26			
	18	前期のまとめ② 9/2			
	19	前期定期試験 9/9			
	20	解説 9/16			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復理論 7 版 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	人文科学概論	授業方法	講 義	講師名	矢島伸男・野村真之介
授業目標	一人ひとりが心理的安全性の高い雰囲気づくりに寄与し、笑いを活用したコミュニケーション能力の向上をはかる。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション・心理的安全性とは？（矢島）			
	2	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践①（矢島・野村）			
	3	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践②（野村）			
	4	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践③（野村）			
	5	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践④（野村）			
	6	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践⑤（野村）			
	7	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践⑥（野村）			
	8	心理的安全性を高めるコミュニケーションとインプロ実践⑦（野村）			
	9	笑い表現基礎①（矢島）			
	10	笑い表現基礎②（野村）			
	11	笑い表現基礎③（野村）			
	12	笑い表現基礎④（野村）			
	13	笑い表現応用①（矢島）			
	14	笑い表現応用②（矢島）			
	15	笑い表現応用③（矢島）			
	16	演習準備①（矢島）			
	17	演習準備②（矢島）			
	18	演習準備③（矢島）			
	19	総合演習（矢島・野村）			
	20	授業内試験（筆記）・定期試験解説・授業総括（矢島）			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			5 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / ☑発表 / ☑出席状況 ☑授業態度 / その他（ ）			5 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無		有 ・ 無		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	自然科学概論	授業方法	講 義	講師名	末永 美雪
授業目標	地球と人類の進化を理解し、自然科学の発展・環境問題の概要を学ぶ。さらに栄養素の働きを学び、疾病と栄養の関係を理解し、正しい食生活支援ができることを目指す。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス アイスブレイク 人類と環境			
	2	人間活動と気候の変動			
	3	エネルギーと地球環境 酸性雨 オゾン層の破壊			
	4	森林と環境 環境を保全する森林 森林破壊			
	5	都市生活と環境 都市と水 ごみ問題			
	6	生活環境と疾病 がん 高齢化とがん			
	7	子供を取り巻く環境 物理的環境・情報環境・倫理的環境			
	8	食をめぐる課題と対応 正しい食生活			
	9	中間テスト 自然環境に関する課題			
	10	栄養素の種類と働き 糖質・脂質・タンパク質			
	11	栄養素の種類と働き ビタミン・ミネラル・食物繊維・水			
	12	疾病と栄養 ①栄養障害 肥満症			
	13	疾病と栄養 ②代謝疾患 糖尿病			
	14	疾病と栄養 ③循環器疾患 高血圧症			
	15	疾病と栄養 ④血液系疾患 貧血			
	16	疾病と栄養 ⑤免疫・アレルギー疾患 アレルギー症			
	17	支援の基本、コミュニケーションとカウンセリング			
	18	まとめ・復習 疾病と栄養に関する課題レポート			
	19	定期試験			
	20	定期試験解説・採点のポイント説明			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			5 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他(毎時間の提出物、レポート)			5 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	教科書:臨床栄養学実習 栄養食事アセスメントとケアプラン 第 5 版 編集 芳本信子 学建書院			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	総合領域 I	授業方法	講 義	講師名	中井 真悟
授業目標	人体の発生や生命を維持するために必要な機能を理解し、骨構造やその役割を説明できる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、解剖学の意義・分類・用語			
	2	細胞内小器官の構造と機能①			
	3	細胞内小器官の構造と機能②			
	4	細胞周期・分裂			
	5	発生・器官系統			
	6	確認テスト1 (25 問)、骨の微細構造			
	7	確認テスト2 (15 問)、骨学総論① (主な骨と関節の名称)			
	8	確認テスト3 (25 問)、骨学総論② (頭蓋を構成する骨の名称)			
	9	確認テスト4 (15 問)、骨学総論③ (身体構造と機械の類似性)			
	10	骨の名称① (肩甲帯～上腕部)			
	11	確認テスト5 (15 問)、骨の名称② (肘関節～手指)			
	12	確認テスト6 (15 問)、骨の名称③ (寛骨～大腿部)			
	13	確認テスト7 (15 問)、骨の名称④ (膝関節～足趾)			
	14	確認テスト8 (15 問)、骨の名称⑤ (頸椎～胸郭を構成する骨)			
	15	確認テスト9 (15 問)、骨の名称⑥ (腰椎～骨盤帯を構成する骨)			
	16	確認テスト10 (15 問)、骨の名称⑦ (脳頭蓋を構成する骨)			
	17	確認テスト11 (15 問)、(顔面頭蓋を構成する骨、他)			
	18	確認テスト12 (15 問)、総復習			
	19	前期試験 (筆記試験)			
	20	解答・解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他 ()			7 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他 ()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	「解剖学」 第3版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	森田遼介
授業目標	臨床実習に向けて臨床を学ぶ視点や、患者対応について考えられるようにする。また外部臨床実習をより意義のあるものにするために準備を行う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	臨床実習準備			
	2	臨床実習準備			
	3	臨床実習準備			
	4	臨床実習			
	5	臨床実習			
	6	臨床実習			
	7	臨床実習			
	8	臨床実習			
	9	臨床実習			
	10	臨床実習			
	11	臨床実習			
	12	臨床実習			
	13	臨床実習			
	14	臨床実習			
	15	臨床実習			
	16	臨床実習			
	17	臨床実習			
	18	臨床実習			
	19	定期試験(レポート)			
	20	臨床実習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 ☑その他(レポート)			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 □授業態度 / その他()			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年		
科目名	生理学 I a	授業方法	講 義	講師名	三井 哲雄		
授業目標	人体の生命現象と正常機能、およびその体系を理解し、生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、各々の生理学的機能について説明できるようにする。						
実務経験のある教員 等による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス、生理学とは（生体の恒常性）【生理学 4 版 生理学とは p1~10】					
	2	細胞の構造と機能①（細胞膜）					
	3	細胞の構造と機能②（細胞内小器官）					
	4	細胞の構造と機能③（核、DNA、細胞周期）					
	5	組織・器官と生体の機能系（上皮組織、支持組織、筋組織）					
	6	体液の区分と組成					
	7	筋の生理学①（骨格筋の構造）		【筋の生理学 p11~21】			
	8	筋の生理学②（骨格筋の収縮と弛緩）					
	9	筋の生理学③（心筋、平滑筋）					
	10	1～9回までのまとめ、小テスト①					
	11	血液の生理学①（血液の成分と組成）		【血液 p115~126】			
	12	血液の生理学②（血液凝固因子、血液型）					
	13	免疫系①（免疫系器官と免疫担当細胞）		【血液 p127~132】			
	14	免疫系②（自然免疫・獲得免疫）					
	15	骨の生理学①（骨の役割、骨の構造）		【骨の生理学 p133~138】			
	16	骨の生理学②（骨の成長、カルシウム代謝調節）					
	17	11～16回のまとめ、小テスト②					
	18	前期の総まとめ					
	19	後期試験（筆記試験）					
	20	解説・採点のポイントを説明					
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			9 割		
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他（ ）			1 割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	「生理学」第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂					
	配布資料の有無	(有)・無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱa	授業方法	講 義	講師名	鬼頭健介
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。グループワークの中で発表の準備を通じて、より深い知識を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 15 年 10 月～平成 30 年 12 月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス/グループワークの説明			
	2	体力学総論			
	3	対象と目的に応じた栄養摂取			
	4	運動と栄養の基礎理論			
	5	運動と心理 基礎理論			
	6	救急救命法			
	7	スポーツ傷害			
	8	スポーツバイオメカニクス			
	9	前半まとめ			
	10	グループワーク			
	11	グループワーク発表/子どものスポーツ			
	12	グループワーク発表/女性アスリート			
	13	グループワーク発表/プロテイン			
	14	自重トレ・チューブエクササイズ①			
	15	自重トレ・チューブエクササイズ②			
	16	運動学習と指導法			
	17	後半まとめ			
	18	総復習			
	19	確認試験			
	20	試験解説・ポイント説明・おさらい			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / ☑発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	関係法規	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	柔道整復師に関する法律、関係法規を学び、患者と医療従事者の権利について考えられるようにする。また柔道整復師としての立場を自覚できるようにする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス I. 序論 法の意義、体系			
	2	柔道整復師および柔道整復に関する法規、権利			
	3	医療過誤とリスクマネジメント			
	4	II. 柔道整復師法			
	5	総 則			
	6	免 許			
	7	業 務			
	8	施術所			
	9	〃			
	10	雑則、罰則			
	11	III. 関係法規			
	12	医療従事者の資格法			
	13	医療法			
	14	社会福祉関係法規			
	15	社会保険関係法規			
	16	その他の関係法規			
	17	まとめ			
	18	復 習			
	19	定期試験（筆記試験）			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他（ ）			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 関係法規 2024 年版			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	競技者の外傷予防	授業方法	講 義	講師名	森田遼介・森山伸一
授業目標	競技者の外傷予防について、臨床知識を踏まえながら予防の仕方を習得することを目的とする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生要因			
	2	競技者の外傷予防 外傷の予防対策			
	3	競技者の外傷予防 評価と測定			
	4	競技者の外傷予防 コンディショニング			
	5	競技者の外傷予防 肩関節の外傷予防			
	6	競技者の外傷予防 体幹の傷害予防			
	7	競技者の外傷予防 膝関節の外傷予防			
	8	競技者の外傷予防 足関節の外傷予防			
	9	定期試験			
	10	解答・解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / ☒ その他(欠席なしは評価する)			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復師学校協会 監修 競技者の外傷予防			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	高齢者の外傷予防	授業方法	講 義	講師名	森田遼介・森山伸一
授業目標	高齢者の外傷予防について、臨床知識を踏まえながら予防の仕方を習得することを目的とする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	高齢者の外傷予防 総論①			
	2	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム・エクササイズ①			
	3	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム・エクササイズ②			
	4	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態①			
	5	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態②			
	6	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態③			
	7	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態④			
	8	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態⑤			
	9	定期試験			
	10	解答・解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / ☑その他(欠席なしは評価する)			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復師学校協会 監修 高齢者の外傷予防			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱa	授業方法	実 技	講師名	太田 峯兵
授業目標	1 年次に学んだ総論の知識をもとには上肢軟部組織の実技、柔道整復師に必要な解剖学の知識を学び、柔道整復師の業を正しく実践できるよう理解を深めていく。また認定実技対策として診察と検査の実技を実施し、技術習得と知識をより深める。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス 骨・筋肉の復習 手関節の脱臼			
	2	手根部・手指部の脱臼			
	3	手根部・手指部の脱臼			
	4	PIP 関節背側脱臼の固定①			
	5	PIP 関節背側脱臼の固定②			
	6	PIP 関節背側脱臼の固定③			
	7	実技試験			
	8	実技試験			
	9	解説			
	10	まとめ			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価の方法	該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)				評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席等があったら減点(1 回につき遅刻 -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編 改訂第2版、全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版			
	配布資料の有無	☒ 有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱa	授業方法	実 技	講師名	匂坂 文洋
授業目標	下肢骨折、股関節脱臼、手関節～指節間関節の脱臼についての理解と知識の修得をする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、骨盤骨単独骨折について			
	2	骨盤骨単独骨折、骨盤骨輪骨折について			
	3	大腿骨近位端部骨折について			
	4	大腿骨骨幹部骨折について			
	5	大腿骨遠位端部骨折、股関節脱臼について			
	6	股関節脱臼について			
	7	大腿四頭筋打撲の診察・検査について			
	8	大腿四頭筋打撲の診察・検査について			
	9	定期試験			
	10	テスト解説、まとめ			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学理論・柔道整復学実技編			
	配布資料の有無	☒ 有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱa	授業方法	実 技	講師名	松本展岳
授業目標	軟部組織損傷の各論:最近の国家試験の出題傾向で臨床問題が増えてきています。柔道整復師の実際の臨床現場でも業務の中心となっておりこの科目の重要性を認識してもらう。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	肘損傷の徒手検査法、小テスト			
	2	D・前腕部の解剖機能 P365①.②.			
	3	③前腕部末梢神経障害①			
	4	③前腕部末梢神経障害②徒手検査法、固定法および小テスト			
	5	E・手関節損傷① ② ③末梢神経損傷 P370			
	6	E・手関節損傷④⑤ 小テスト			
	7	F・手指部損傷 ① ② 徒手検査法、			
	8	上肢軟損まとめ及び定期試験対策			
	9	前期定期試験			
	10	解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 第 7 版			
	配布資料の有無	有			

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱa	授業方法	実 習	講師名	上村 英記
授業目標	①上肢損傷に対する基礎知識と実技技術を習得できる。 ②国家試験ならびに認定実技審査に対応できる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	指骨の骨折③(末節骨骨折、マレットフィンガー)【Page241-244】			
	2	コーレス骨折の評価と整復、固定①【Page217-221】			
	3	コーレス骨折の評価と整復、固定②【Page217-221】			
	4	第 5 中手骨頸部骨折のアルミニウム副子固定①【Page231-232】			
	5	実技総合復習【Page217-221、Page231-232】			
	6	実技総合復習【Page217-221、Page231-232】			
	7	実技総合復習【Page217-221、Page231-232】			
	8	実技総合復習【Page217-221、Page231-232】			
	9	実技試験①			
	10	実技試験②			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☐ 筆記試験 / ☒ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編改定第 7 版(南江堂)ISBN978-4-524-23318-2			
	配布資料の有無	有 (A4 で配布する)			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱb	授業方法	実 技	講師名	小松敏美
授業目標	保存療法の基本を理解する。上腕骨遠位部骨折から前腕骨幹部骨折の発生機序から治癒までの経過を学ぶ。肘関節脱臼の診察から整復・固定法を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	上腕骨遠位部の骨折 P193～ 上腕骨顆上骨折 4/10			
	2	上腕骨顆上骨折 4/17			
	3	上腕骨外顆骨折 上腕骨内側上顆骨折 4/24			
	4	上腕骨遠位部骨折 まとめ 5/8			
	5	前腕骨近位部骨折 P203～ 橈骨近位端部骨折 5/15			
	6	肘頭骨折 5/22			
	7	前腕骨骨幹部骨折 P208～ 橈骨骨幹部骨折 ガレアジ骨折 5/29			
	8	尺骨骨幹部骨折 6/5			
	9	モンテギア骨折 6/12			
	10	橈・尺両骨骨幹部骨折 P214～P217 6/19			
	11	前腕骨近位部骨折 前腕骨骨幹部骨折 まとめ 6/26			
	12	肘関節脱臼 P310～315 柔道整復実技 P232～240 7/3			
	13	肘関節脱臼 肘内障 理論 P310～315 柔道整復実技 P232～240 7/10			
	14	整復実技 肘関節後方脱臼 肘内障 7/17			
	15	整復実技 固定実技 7/24			
	16	固定実技 肘関節後方脱臼 7/31			
	17	前期のまとめ① 8/21			
	18	前期のまとめ② 8/28			
	19	前期定期試験 9/4			
	20	解 説 9/11			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学理論編 7 版 柔道整復学実技編			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	整形外科科学	授業方法	講 義	講師名	深澤 進次
授業目標	柔道整復師にとって、日常診療で遭遇し得る疾患を習得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	運動器の基礎知識			
	2	整形外科的診察			
	3	検査法			
	4	画像診断			
	5	画像診断 骨粗鬆症			
	6	保存療法			
	7	観血的治療			
	8	骨関節損傷			
	9	骨関節損傷			
	10	感染性疾患			
	11	骨腫瘍			
	12	変形性膝関節症 関節リウマチ			
	13	血清反応陰性脊椎関節症			
	14	骨系統疾患			
	15	骨端症			
	16	循環障害			
	17	神経筋疾患			
	18	神経筋疾患			
	19	テスト			
	20	復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 整形外科科学			
	配布資料の有無	有・ <u>無</u>			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2年
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	森山 伸一
授業目標	生理学で習う内分泌、生殖、骨の生理学、尿の生成、体液の生理学の要点を確認し、国家試験の出題基準での内容の理解度を深めることを目標とする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	柔道整復師の為の内分泌①			
	2	柔道整復師の為の内分泌②			
	3	柔道整復師の為の内分泌③			
	4	柔道整復師の為の内分泌④			
	5	柔道整復師の為の生殖①			
	6	柔道整復師の為の生殖②			
	7	柔道整復師の為の生殖③			
	8	柔道整復師の為の骨の生理学①			
	9	総復習（内分泌・生殖・骨小テスト）			
	10	柔道整復師の為の尿の生成①			
	11	柔道整復師の為の尿の生成②			
	12	柔道整復師の為の尿の生成③			
	13	柔道整復師の為の尿の生成④			
	14	柔道整復師の為の体液の生理学			
	15	柔道整復師の為の体液の生理学			
	16	柔道整復師の為の体液の生理学			
	17	柔道整復師の為の体液の生理学			
	18	総復習（尿の生成・体液小テスト）			
	19	前期定期試験			
	20	解答・解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			6 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / ☒ その他(欠席なしは評価する)			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	生理学改定第4版（旧）生理学改定第3版			
	配布資料の有無	○ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	総合領域Ⅲ	授業方法	講 義	講師名	中村協、森田遼介
授業目標	人体を構成する細胞や筋骨格系の構造・機能を理解し、一般臨床の機序を説明できるようになる。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、オリエンテーション 森田			
	2	一般臨床 復習(診察) 森田			
	3	一般臨床 復習(診察) 森田			
	4	一般臨床 復習(診察) 森田			
	5	一般臨床 復習(各論) 森田			
	6	オリエンテーション 中村			
	7	循環の生理学 予習・復習① 中村			
	8	循環の生理学 予習・復習② 中村			
	9	呼吸の生理学 予習・復習① 中村			
	10	呼吸の生理学 予習・復習② 中村			
	11	一般臨床 復習(各論) 森田			
	12	一般臨床 復習(各論) 森田			
	13	一般臨床 復習(各論) 森田			
	14	一般臨床 復習(各論) 森田			
	15	一般臨床 復習(各論) 森田			
	16	栄養と代謝 予習・復習① 中村			
	17	消化と吸収 予習・復習① 中村			
	18	消化と吸収 予習・復習② 中村			
	19	前期定期試験 中村			
	20	解答・解説 中村			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	「生理学」第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 全国柔道整復学校協会 一般臨床			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	生理学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	三井 哲雄
授業目標	人体の生命現象と正常機能、およびその体系を理解し、生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、各々の生理学的機能について説明できるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、循環の生理学①（心臓・体循環・肺循環、心筋の性質）			
	2	循環の生理学②（心電図、心周期） [循環の生理学 p139~157]			
	3	循環の生理学③（血管系、リンパ系）			
	4	循環の生理学④（血圧）			
	5	循環の生理学⑤（循環調節）			
	6	呼吸の生理学①（呼吸器の構造、換気のしくみ） [呼吸の生理学 p159~170]			
	7	呼吸の生理学②（肺気量、ガス交換）			
	8	呼吸の生理学③（呼吸周期の調節）			
	9	循環・呼吸のまとめ、小テスト①			
	10	栄養と代謝①（生体に必要な栄養素） [栄養と代謝 p183~195]			
	11	栄養と代謝②（エネルギー代謝）			
	12	栄養と代謝③（糖質・タンパク質・脂質の代謝）			
	13	消化と吸収①（消化器系とは、消化管運動とその調節）			
	14	消化と吸収②（消化液と消化酵素） [消化と吸収 p197~214]			
	15	消化と吸収③（食物の消化と栄養素の吸収）			
	16	体温とその調節①（体温、熱産生、熱放散） [体温とその調節 p215~222]			
	17	体温とその調節②（体温調節、発熱とうつ熱）			
	18	前期の総まとめ、小テスト②			
	19	後期試験（筆記試験）			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			9 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 ☑授業態度 / その他（ ）			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	「生理学」第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂			
	配布資料の有無	（有）・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	太田峽兵
授業目標	臨床実習に向けて臨床を学ぶ視点や、患者対応について考えられるようにする。また外部臨床実習をより意義のあるものにするために準備を行う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	臨床実習準備			
	2	臨床実習準備			
	3	臨床実習準備			
	4	臨床実習			
	5	臨床実習			
	6	臨床実習			
	7	臨床実習			
	8	臨床実習			
	9	臨床実習			
	10	臨床実習			
	11	臨床実習			
	12	臨床実習			
	13	臨床実習			
	14	臨床実習			
	15	臨床実習			
	16	臨床実習			
	17	臨床実習			
	18	臨床実習			
	19	定期試験(レポート)			
	20	臨床実習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 ☑その他(レポート)			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 □授業態度 / その他()			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	太田 峽兵
授業目標	1 年次に学んだ総論の知識をもとには上肢軟部組織および柔道整復師に必要な解剖学の知識を学び、柔道整復師の業を正しく実践できるよう理解を深めていく。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	柔道整復師のための解剖学			
	2	柔道整復師のための解剖学			
	3	柔道整復師のための解剖学			
	4	柔道整復師のための解剖学			
	5	柔道整復師のための解剖学			
	6	柔道整復師のための解剖学			
	7	柔道整復師のための解剖学			
	8	柔道整復師のための解剖学			
	9	前期定期試験			
	10	解 説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			6 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他()			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席等があったら減点(1 回につき遅刻 -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編 改訂第2版、全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版			
	配布資料の有無	☒ 有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	匂坂 文洋
授業目標	下肢骨折、股関節脱臼、手関節～指節間関節の脱臼についての理解と知識の修得をする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ハムストリングス損傷の診察・検査について			
	2	ハムストリングス損傷の診察・検査について			
	3	ハムストリングス損傷の診察・検査について			
	4	ハムストリングス損傷の診察・検査について			
	5	大腿四頭筋打撲・ハムストリングス損傷のまとめ			
	6	大腿四頭筋打撲・ハムストリングス損傷のまとめ			
	7	大腿四頭筋打撲・ハムストリングス損傷のまとめ			
	8	下肢骨折・股関節脱臼まとめ			
	9	定期試験			
	10	テスト解説、まとめ			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学理論・柔道整復学実技編			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	松本展岳
授業目標	軟部組織損傷の各論:最近の国家試験の出題傾向で臨床問題が増えてきています。柔道整復師の実際の臨床現場でも業務の中心となっておりこの科目の重要性を認識してもらう。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 3-2A・肩関節の損傷 P350			
	2	① 筋腱の損傷 a 腱板損傷 P352			
	3	b 上腕二頭筋損傷 P353			
	4	肩関節の徒手検査法、固定法、および小テスト			
	5	②スポーツ損傷 a.b.c.d.			
	6	③不安定症 ④末梢神経障害 P359.			
	7	B 上腕部損傷 P361			
	8	上腕部徒手検査法、小テスト			
	9	前期定期試験			
	10	解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 第 7 版			
	配布資料の有無	有			

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	上村 英記
授業目標	①上肢損傷に対する基礎知識を習得できる。 ②国家試験ならびに認定実技審査に対応できる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス・前腕骨遠位端部骨折(コーレス骨折①)【Page217-221】			
	2	前腕骨遠位端部骨折(コーレス骨折②、スミス骨折)【Page217-222】			
	3	前腕骨遠位端部骨折(バートン骨折～橈骨遠位端骨端線損傷)【Page221-224】			
	4	コーレス骨折の計測			
	5	手根部の骨折【Page225-230】			
	6	中手骨部の骨折①(中手骨頸部骨折、中手骨骨幹部骨折等)【Page230-234】			
	7	中手骨部の骨折②(第 1・5 中手骨基部骨折)【Page234-236】			
	8	指骨の骨折①(基節骨骨折)【Page237-239】 指骨の骨折②(中節骨骨折)【Page239-241】			
	9	筆記試験			
	10	筆記試験の解説と総括			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編改定第 7 版(南江堂)ISBN978-4-524-23318-2			
	配布資料の有無	有 (A4 で配布する)			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程		担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	衛生学・公衆衛生学		授業方法	講 義	講師名	塚本 輝
授業目標	衛生学とは、生命を衛(まもる)学問であり、病気の予防や健康増進の知識と技術、これらが展開される保健福祉の法制・倫理を理解することを目的とする。					
実務経験のある 教員等による授業科目						
授業内容 及び進度	回数	講義/ 実技	項目・内容			
	1	講義	ガイダンス			
	2	講義	健康の概念			
	3	講義	疾病予防と健康管理			
	4	講義	感染症の予防			
	5	講義	感染症の予防			
	6	講義	消毒			
	7	講義	環境衛生(環境保健)			
	8	講義	生活環境・食品衛生活動			
	9	講義	母子保健			
	10	講義	学校保健			
	11	講義	産業保健			
	12	講義	成人・高齢者保健			
	13	講義	精神保健			
	14	講義	地域保健と国際保健			
	15	講義	衛生行政と保健医療の制度			
	16	講義	医療の倫理と安全の確保			
	17	講義	疫学			
	18	講義	前期総復習			
	19	講義	前期期末試験			
	20	講義	試験解説			
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 / □その他() ※☑マークシートを用いる				8 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / □授業態度 / その他()				2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
備考	柔整実技Ⅱa の授業内で実技試験を実施する。この結果は後期の柔整実技Ⅱa に加味する。					
参考図書	教科書・参考書名		衛生学・公衆衛生学 改訂第6版			
	配布資料の有無		㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	外傷の保存療法	授業方法	講 義	講師名	太田 峽兵
授業目標	保存療法の基本を理解し固定法を学ぶ。固定に使用する材料と利用方法を理解し、患者への指導管理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目		平成 30 年 1 月～令和 2 年 3 月坂本接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫等の外傷を扱う。それらの経験を活かし柔道整復術に関わる講義を行う。			
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション			
	2	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	3	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	4	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	5	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	6	外傷保存 P141～149			
	7	外傷保存 P141～149			
	8	外傷保存 P141～149			
	9	外傷保存 P141～149			
	10	外傷の保存			
	11	外傷の保存			
	12	外傷の保存			
	13	外傷の保存			
	14	外傷の保存			
	15	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	16	膝関節側副靱帯損傷(X サポート)の固定			
	17	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	18	足関節外側靱帯損傷(バスケットウィーブ、ヒールロック・フィギュアエイト)の固定			
	19	前期定期試験			
	20	解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / その他()			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。出席点 10 点。遅刻・欠席があったら減点(1 回につき遅刻・早退、白衣忘れ -1 欠席 -3) 0 点を下回ることはありません。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第7版、実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	リハビリテーション医学	授業方法	講 義	講師名	内田 全城
授業目標	リハビリテーション医学の理念と対象、及び障害に応じた評価と実践方法について学習し、リハビリテーション医療の実践者として必要な知識を修得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	リハビリテーションの理念、対象と障害者の実態			
	2	障害の階層とリハビリテーション医療			
	3	リハビリテーション医療の関連職種とチームアプローチ			
	4	リハビリテーション障害・評価・治療学①（運動器障害：骨）			
	5	リハビリテーション障害・評価・治療学②（運動器障害：関節）			
	6	リハビリテーション障害・評価・治療学③（運動器障害：靱帯）			
	7	リハビリテーション障害・評価・治療学④（運動器障害：筋）			
	8	リハビリテーション障害・評価・治療学⑤（神経障害：末梢神経）			
	9	リハビリテーション障害・評価・治療学⑥（神経障害：中枢神経）			
	10	リハビリテーション障害・評価・治療学⑦（神経障害：高次脳機能障害）			
	11	リハビリテーション障害・評価・治療学⑧（神経筋障害）			
	12	リハビリテーション障害・評価・治療学⑨（内部障害：循環）			
	13	リハビリテーション障害・評価・治療学⑩（内部障害：呼吸）			
	14	リハビリテーション障害・評価・治療学⑪（内部障害：代謝）			
	15	リハビリテーション障害・評価・治療学⑫（補装具療法）			
	16	リハビリテーションと福祉①（関連法規）			
	17	リハビリテーションと福祉②（住環境と福祉用具）			
	18	高齢者リハビリテーション			
	19	定期試験			
	20	解説・採点のポイント			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他（ ）			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他（ ）			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	リハビリテーション医学 改訂第4版			
	配布資料の有無	☒ 有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	柔道3	授業方法	実 習	講師名	森山 伸一
授業目標	柔道に親しむとともに、公益財団法人柔道整復研修試験財団による認定実技審査のうち柔道実技試験に合格できるレベルの素養を身につける。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成 28 年 4 月～令和 5 年 3 月専門学校や大学の付属接骨院で柔道整復師として働いた経験を活かし柔道精神である「精力善用」「自他共栄」を教授する。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	姿勢、礼法 柔道の歴史、嘉納師範の考え・言葉、遺訓、講道館柔道の目的			
	2	受け身 後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身			
	3	投技の基本動作 歩き方、組み方、崩し			
	4	投技の基本動作 歩き方、組み方、崩し			
	5	投の形 手技①浮落			
	6	投の形 手技②背負投			
	7	投の形 手技③肩車			
	8	投の形 腰技①浮腰			
	9	投の形 腰技②払腰			
	10	投の形 腰技③釣込腰			
	11	投の形 足技①送足払			
	12	投の形 足技②支釣込足			
	13	投の形 足技③内股			
	14	投の形 通し稽古①			
	15	投の形 通し稽古②			
	16	投の形 通し稽古③			
	17	投の形 通し稽古④			
	18	総まとめ①			
	19	総まとめ②			
	20	総まとめ③			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 / ☒ その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / ☒ その他(化粧、過度の整髪料や香水、 装飾品、不衛生は厳禁とする。2 度目の指摘を受けた場合は欠席扱いとし、評価の対象としない。)			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	公益社団法人全国柔道整復学校協会 柔道			
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	上村 英記
授業目標	①上肢損傷に対する基礎知識と技術を習得できる。 ②認定実技審査に対応できる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス・肘関節後方脱臼の実技①(診察・整復、固定)			
	2	肘関節後方脱臼の実技②(診察・整復、固定)			
	3	肘内障の実技(診察・整復)			
	4	コーレス骨折の実技①(診察・整復、固定)			
	5	コーレス骨折の実技②(診察・整復、固定)			
	6	第 5 指中手骨頸部骨折の実技(固 定)			
	7	第 2 指 PIP 関節脱臼の実技(固 定)			
	8	肩腱板損傷の実技(診察・検査)			
	9	上腕二頭筋長頭腱損傷の実技(診察・検査)			
	10	第 1～9 回までの実技①			
	11	第 1～9 回までの実技②			
	12	第 1～9 回までの実技③			
	13	第 1～9 回までの実技④			
	14	第 1～9 回までの実技⑤			
	15	第 1～9 回までの実技⑥			
	16	第 1～9 回までの実技⑦			
	17	第 1～9 回までの実技⑧			
	18	認定実技審査模擬試験⑨			
	19	認定実技審査模擬試験⑩			
	20	認定実技審査模擬試験のフィードバック			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編改定第 7 版(南江堂)ISBN978-4-524-23318-2			
	配布資料の有無	有(紛失の場合、再配布はしない)			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年		
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	匂坂 文洋		
授業目標	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する理解を深め、診察・整復・徒手検査における技術の習得を目的とする。						
実務経験のある教員 等による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	オリエンテーション・鎖骨骨折(診察・整復)					
	2	鎖骨骨折(診察・整復)					
	3	鎖骨骨折(固定)					
	4	鎖骨骨折(固定)					
	5	上腕骨外科頸骨折(診察・整復)					
	6	上腕骨外科頸骨折(診察・整復)					
	7	肩鎖関節上方脱臼(診察・整復)					
	8	肩鎖関節上方脱臼(診察・整復)					
	9	肩鎖関節上方脱臼(固定)					
	10	肩鎖関節上方脱臼(固定)					
	11	上腕骨骨幹部骨折(固定)					
	12	上腕骨骨幹部骨折(固定)					
	13	肩関節前方脱臼(診察・整復)					
	14	肩関節前方脱臼(診察・整復)					
	15	肩関節前方脱臼(固定)					
	16	肩関節前方脱臼(固定)					
	17	肋骨骨折(固定)					
	18	総合模擬実技①					
	19	総合模擬実技②					
	20	総合練習					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 ☒ その他(模擬認定実技試験を評価とする)			10 割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学理論書・柔道整復学実技書・解剖学					
	配布資料の有無	(有)・無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	小松敏美
授業目標	認定実技範囲における(下肢)軟部組織損傷(診察・検査法)、固定法(下肢)骨折・軟部組織損傷実技 理論・実技の技術向上と理解を目標とする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス 資料 ⑩ハムストリングス損傷 ⑪大腿四頭筋打撲 4/9			
	2	⑫膝関節側副靱帯損傷 ⑬膝関節十字靱帯損傷 ⑭膝関節半月板損傷 4/16			
	3	⑫膝関節側副靱帯損傷 ⑬膝関節十字靱帯損傷 ⑭膝関節半月板損傷 4/23			
	4	⑮下腿三頭筋損傷 ⑯足関節外側靱帯損傷 4/30			
	5	⑩～⑯ 検査法確認 5/7			
	6	固定法 診察 ⑤下腿骨幹部骨折 5/14			
	7	固定法 診察 ⑪アキレス腱断裂 5/21			
	8	固定法 診察 ⑫足関節外側靱帯損傷 6/4			
	9	診察・検査実技 大腿四頭筋打撲 6/11			
	10	ハムストリングス損傷 6/18			
	11	膝関節側副靱帯損傷 6/25			
	12	膝関節十字靱帯損傷 7/2			
	13	膝関節半月板損傷 7/9			
	14	下腿三頭筋損傷 7/16			
	15	固定実技 アキレス腱断裂 7/23			
	16	足関節外側靱帯損傷 7/30			
	17	下腿骨幹部骨折 8/20			
	18	固定法 8/27			
	19	前期実技のまとめⅠ 9/3			
	20	前期実技のまとめⅡ 9/10			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無		有		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	授業方法	講 義	講師名	波多野 晃岐
授業目標	柔道整復師が遭遇する外傷や疾患に対して施術適否の判断、医用画像への理解を深める事を目標とする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、柔道整復術の適否を考える			
	2	損傷に類似した症状を示す疾患①			
	3	損傷に類似した症状を示す疾患②			
	4	血流障害を伴う損傷			
	5	末梢神経損傷を伴う損傷			
	6	脱臼骨折			
	7	外出血を伴う損傷①			
	8	外出血を伴う損傷②			
	9	病的骨折及び脱臼			
	10	病的骨折及び脱臼			
	11	脊髄症状のある損傷①			
	12	脊髄症状のある損傷②			
	13	呼吸運動障害を伴う損傷			
	14	内臓損傷の合併が疑われる損傷			
	15	高エネルギー外傷			
	16	医用画像の理解①			
	17	医用画像の理解②、超音波画像検査			
	18	医用画像の理解③、超音波画像検査			
	19	前期試験(筆記試験)			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			0 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	施術の適応と医用画像の理解			
	配布資料の有無	有			

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	柔道整復術の適応	授業方法	講 義	講師名	深澤 進次
授業目標	柔道整復師に必要な知識の習得、かつ応用へ繋げられる知識の習得を目指す				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	柔道整復術の適否を考える			
	2	損傷に類似した症状を示す疾患			
	3				
	4	血流障害を伴う損傷			
	5	末梢神経損傷を伴う損傷			
	6				
	7	脱臼骨折			
	8	外出血を伴う損傷			
	9				
	10	病的骨折および脱臼			
	11	意識障害を伴う損傷			
	12	脊髄症状のある損傷			
	13				
	14	呼吸運動障害を伴う損傷			
	15	内臓損傷の合併が疑われる損傷			
	16				
	17	高エネルギー外傷			
	18	まとめ			
	19	定期試験			
	20	ポイントの復習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10～9 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / その他()			0～1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 「医療の中の柔道整復」			
	配布資料の有無	有 ・ (無)			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	浦田 輝彦
授業目標	これまでに学んできた解剖学の内容をもとに、運動器系、神経系を中心に人体の構造と機能について復習を実施する。柔道整復師が業務範囲とする損傷を正しく認識し、処置対応ができるようになるよう知識を深めていくことを目標とする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス・柔道整復師のための神経系の解剖①			
	2	柔道整復師ための神経系の解剖②			
	3	柔道整復師ための神経系の解剖③			
	4	柔道整復師ための神経系の解剖④			
	5	柔道整復師ための神経系の解剖⑤			
	6	柔道整復師ための神経系の解剖⑥			
	7	柔道整復師ための神経系の解剖⑦			
	8	柔道整復師ための神経系の解剖⑧			
	9	中間テスト			
	10	柔道整復師のための運動器系の解剖①			
	11	柔道整復師のための運動器系の解剖②			
	12	柔道整復師のための運動器系の解剖③			
	13	柔道整復師のための運動器系の解剖④			
	14	柔道整復師のための運動器系の解剖⑤			
	15	柔道整復師のための運動器系の解剖⑥			
	16	柔道整復師のための運動器系の解剖⑦			
	17	柔道整復師のための運動器系の解剖⑧			
	18	柔道整復師のための運動器系の解剖⑨			
	19	期末試験			
	20	解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			5 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/□出席状況 □授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	解剖学第 2 版			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程		担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅳ		授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	これまでに学んできた生理学の知識をさらに深め、臨床の場における身体診察や病態把握、施術等、様々な場面で応用できる能力を養う。					
実務経験のある 教員等による授業科目						
授業内容 及び進度	回数	講義/ 実技	項目・内容			
	1	講義	1. 生理学とは			
	2	講義	〃			
	3	講義	〃			
	4	講義	2. 筋の生理			
	5	講義	〃			
	6	講義	〃			
	7	講義	4. 運動の生理			
	8	講義	〃			
	9	講義	〃			
	10	講義	6. 内分泌			
	11	講義	〃			
	12	講義	〃			
	13	講義	7. 生 殖			
	14	講義	〃			
	15	講義	〃			
	16	講義	復習・問題演習			
	17	講義	〃			
	18	講義	〃			
	19	講義	定期試験（筆記試験）			
	20	講義	解説・採点のポイントを説明			
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 / □その他（ ※□マークシートを用いる				10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / □授業態度 / □その他				割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
備考						
参考図書	教科書・参考書名		全国柔道整復学校協会 生理学 改訂第 4 版			
	配布資料の有無		㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	3 年
科目名	物理療法機器の 取扱い	授業方法	講 義	講師名	匂坂 文洋
授業目標	物理療法機器の取り扱いにおいて理解を深め、臨床において適切な判断ができるような知識を習得する。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成 18 年～令和5年までの鍼灸整骨院や専門学校での柔道整復師や教員補助員としての経験を活かし、物理療法機器の取り扱いにおいて理解を深め、臨床において適切な判断ができるような知識を教授する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 後療法について			
	2	手技療法・運動療法について			
	3	手技療法・運動療法について			
	4	手技療法・運動療法について			
	5	手技療法・運動療法について			
	6	物理療法、電気療法について			
	7	電気療法について			
	8	温熱療法について			
	9	温熱療法について			
	10	温熱療法について			
	11	温熱療法について			
	12	寒冷療法について			
	13	寒冷療法について			
	14	寒冷療法について			
	15	寒冷療法について			
	16	牽引療法について			
	17	牽引療法について			
	18	まとめ			
	19	定期試験			
	20	定期試験解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学理論編			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年		
科目名	スポーツ・健康概論Ⅰb	授業方法	講義	講師名	鬼頭 健介		
授業目標	将来、医療従事者としてスポーツ現場に関わった際のトレーニング方法や、実際の臨床で起こり得る場面で役に立つ知識を身につける。						
実務経験のある教員等による授業科目							
授業内容及び進度	回数	項目・内容					
	1	トレーニング指導者の役割					
	2	トレーニング計画の立案(総論)					
	3	筋力トレーニングのプログラム作成					
	4	筋力トレーニングの実際					
	5	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成					
	6	パワー向上トレーニングの実際					
	7	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成					
	8	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際					
	9	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成					
	10	スピード向上トレーニングの実際・前半のまとめ					
	11	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成					
	12	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際					
	13	特別な対象のためのトレーニングとプログラム					
	14	傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム					
	15	トレーニング効果の測定と評価の実際					
	16	測定データの活用とフィードバックの実際					
	17	運動と医学:スポーツ選手の整形外科的障害と予防					
	18	後半のまとめ					
	19	後期試験					
	20	試験解説・ポイント説明・おさらい					
成績評価の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()		7 割			
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる		3 割			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者テキスト理論編・実践編					
	配布資料の有無	㊟ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	競技者の外傷予防	授業方法	講 義	講師名	森田遼介・森山伸一
授業目標	競技者の外傷予防について、臨床知識を踏まえながら予防の仕方を習得することを目的とする。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生要因			
	2	競技者の外傷予防 外傷の予防対策			
	3	競技者の外傷予防 評価と測定			
	4	競技者の外傷予防 コンディショニング			
	5	競技者の外傷予防 肩関節の外傷予防			
	6	競技者の外傷予防 体幹の傷害予防			
	7	競技者の外傷予防 膝関節の外傷予防			
	8	競技者の外傷予防 足関節の外傷予防			
	9	定期試験			
	10	解答・解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			9 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☒ 出席状況 ☒ 授業態度 / ☒ その他(欠席なしは評価する)			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復師学校協会 監修 競技者の外傷予防			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	1 年
科目名	高齢者の外傷予防	授業方法	講 義	講師名	森田遼介・森山伸一
授業目標	高齢者の外傷予防について、臨床知識を踏まえながら予防の仕方を習得することを目的とする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	高齢者の外傷予防 総論①			
	2	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム・エクササイズ①			
	3	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム・エクササイズ②			
	4	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態①			
	5	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態②			
	6	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態③			
	7	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態④			
	8	高齢者の外傷予防 エクササイズの実態⑤			
	9	定期試験			
	10	解答・解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			9 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 ☑授業態度 / ☑その他(欠席なしは評価する)			1 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復師学校協会 監修 高齢者の外傷予防			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年		
科目名	医学史	授業方法	講 義	講師名	小松 敏美		
授業目標	医学の歴史や柔道整復(柔道)の歴史について学び、国民医療の一端として医療人に相応しい心得や倫理観を身につけることを目標とする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	オリエンテーション					
	2	医学の起源と発展					
	3	医の倫理と医療安全					
	4	日本医学の歴史と衛生観念の歴史					
	5	東洋医学と西洋医学の歴史					
	6	柔道の歴史					
	7	柔道整復の歴史					
	8	柔道整復の歴史					
	9	レポート作成(テーマ決め) 【レポート作成の仕方を学び、主張や意見を持てるようになることを目的とする】					
	10	レポート作成					
	11	レポート作成					
	12	レポート作成					
	13	レポート作成					
	14	レポート作成					
	15	レポート作成					
	16	療養費と受療任払い制度について					
	17	社会保障制度について					
	18	復習					
	19	前期試験					
	20	解答解説					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()		7 割			
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる		3 割			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会監修解剖学改定第2版					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年		
科目名	外科学概論	授業方法	講 義	講師名	深澤 進次		
授業目標	柔道整復師にとって、日常診療で遭遇し得る疾患を習得する。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	外科学とは 損傷					
	2	創傷 熱傷					
	3	炎症 外科感染症					
	4	外科感染症 腫瘍(良性腫瘍)					
	5	腫瘍(悪性腫瘍)					
	6	ショック 輸血					
	7	輸液 消毒と滅菌					
	8						
	9	手術					
	10						
	11	麻酔					
	12						
	13	移植と免疫					
	14						
	15	出血と止血					
	16						
	17	心肺蘇生法					
	18	復習					
	19	テスト					
	20	復習					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割		
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 外科学概論					
	配布資料の有無	有 ・ ⑥					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	柔 道 1	授業方法	実 習	講師名	森山 伸一
授業目標	認定実技試験に沿った、基本的な礼法・受け身・投げ技の動作を正しく行えるようにすることを目標とする。また、柔道実技を通して柔道精神である「精力善用」「自他共栄」を修得する。				
実務経験のある教員等 による授業科目	平成 28 年 4 月～令和 5 年 3 月専門学校や大学の付属接骨院で柔道整復師として働いた経験を活かし柔道精神である「精力善用」「自他共栄」を教授する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーションと柔道の歴史			
	2	柔道の歴史			
	3	柔道着の着付け 礼法(立礼・座礼) 立ち方 座り方 歩み			
	4	柔道着の着付け 礼法(立礼・座礼) 立ち方 座り方 歩みの復習 受け身			
	5	間合いの取り方 前受け身 後方受け身 側方受け身			
	6	前受け身 後方受け身 側方受け身の復習 三點前回り受け身			
	7	前受け身 後方受け身 側方受け身の復習 三點前回り受け身の復習			
	8	今まで受け身の復習 前回り受け身			
	9	大腰のやり方 前回り受け身			
	10	小テスト(柔道の筆記試験 30 分) 大腰の復習 前回り受け身 乱取り			
	11	体落としのやり方 前回り受け身			
	12	体落としの復習 前回り受け身			
	13	背負い投げ 大内刈り 小内刈りのやり方 前回り受け身			
	14	背負い投げ 大内刈り 小内刈りのやり方 前回り受け身 乱取り			
	15	投げ技の復習 前回り受け身 乱取り			
	16	受け身の復習 投げの型①手技(浮落) 乱取り			
	17	受け身の復習 投げの型①手技(浮落)の復習 乱取り			
	18	まとめ 復習			
	19	前期試験(実技試験)			
	20	解説・採点のポイント			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無		有 ・ ⑥		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	柔道整復実技Ⅰ	授業方法	実 習	講師名	森田 遼介
授業目標	柔道整復師における包帯固定学の知識と基礎包帯の技術の習得を目指す。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション・巻軸帯の巻き方(巻軸包帯の名称、順・逆巻き、表・裏巻き)			
	2	巻軸帯の巻き方と注意事項			
	3	基本包帯法(環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯)			
	4	基本包帯法(亀甲帯、麦穂帯)			
	5	冠名包帯法(デゾー包帯)			
	6	冠名包帯法(ヴェルポー包帯)			
	7	冠名包帯法(ジュール包帯)、肩鎖関節上方脱臼での応用例(伸縮性テープ)			
	8	部位別包帯法(頭部・顔面) 単頭帯			
	9	部位別包帯法(手指を被覆する包帯法・足関節、背部十字帯)			
	10	実技試験			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 / □その他() ※□マークシートを用いる			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☑中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書					
	教科書・参考書名		包帯固定学・柔道整復理論		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	柔道整復実技Ⅰ	授業方法	実 習	講師名	太田 峯兵
授業目標	大腿部の軟部組織損傷についての理解を深め、今後の認定実技審査への対策を行う。また、軟部組織損傷総論で学んだ内容をもとに、頭部、頸部を含めた体幹部の軟部組織損傷について学習し、同項目について理解し、説明できるようにする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス・前期の復習			
	2	認定実技対策 大腿四頭筋打撲			
	3	認定実技対策 大腿四頭筋打撲			
	4	認定実技対策 ハムストリングスの肉ばなれ			
	5	認定実技対策 ハムストリングスの肉ばなれ			
	6	認定実技対策 認定実技練習			
	7	認定実技対策 認定実技練習			
	8	認定実技対策 実技審査テスト			
	9	認定実技対策 実技審査テスト			
	10	総評 解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂柔道整復学理論編改訂第 7 版・実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程		担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	柔道整復実技Ⅰ		授業方法	実 習	講師名	上村 英記
授業目標	頭部・体幹の筋や、骨折の基礎的な知識だけでなく、臨床家として適切な評価ができるよう実技を通してその診察法や治療法を学ぶ。					
実務経験のある 教員等による授業科目						
授業内容 及び進度	回数	講義/ 実技	項目・内容			
	1	実技	基本包帯法(基礎・原則)			
	2	実技	基本包帯法(亀甲帯・麦穂帯)			
	3	実技	基本包帯法(腋窩枕子の挿入)			
	4	実技	基本包帯法(副子固定)			
	5	実技	肋骨骨折(固定法)			
	6	実技	肋骨骨折(固定法)			
	7	実技	肋骨骨折(固定法)			
	8	実技	肋骨骨折(固定法)			
	9	実技	実技試験①			
	10	実技	実技試験②			
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 / □その他() ※□マークシートを用いる			7 割	
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / □授業態度 / その他()			3 割	
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
備考						
参考図書	教科書・参考書名		柔道整復学実技編・包帯固定学			
	配布資料の有無		㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年		
科目名	総合領域Ⅱ	授業方法	講義	講師名	中村 協		
授業目標	柔道整復師が現場で必要とされる鑑別診断能力、適応外傷を見極めるために必要となる基本的な医学知識を習得することを目標とする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	柔道整復師のための基礎医学①					
	2	柔道整復師のための基礎医学②					
	3	柔道整復師のための基礎医学③					
	4	柔道整復師のための基礎医学④					
	5	柔道整復師のための基礎医学⑤					
	6	柔道整復師のための基礎医学⑥					
	7	柔道整復師のための基礎医学⑦					
	8	柔道整復師のための基礎医学⑧					
	9	柔道整復師のための基礎医学⑨					
	10	柔道整復師のための基礎医学⑩					
	11	柔道整復師のための基礎医学⑪					
	12	柔道整復師のための基礎医学⑫					
	13	柔道整復師のための基礎医学⑬					
	14	柔道整復師のための基礎医学⑭					
	15	柔道整復師のための基礎医学⑮					
	16	柔道整復師のための基礎医学⑯					
	17	柔道整復師のための基礎医学⑰					
	18	まとめ・復習問題					
	19	前期期末試験					
	20	解答・解説					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()		7 割			
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる		3 割			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	解剖学					
	配布資料の有無	○ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程		担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	物理療法機器の 取扱い		授業方法	講 義	講師名	森田遼介
授業目標	物理療法機器の取り扱いにおいて理解を深め、臨床において適切な判断ができるような知識を習得する					
実務経験のある 教員等による授業科目						
授業内容 及び進度	回数	講義/ 実習	項目・内容			
	1	講義	オリエンテーション 後療法について			
	2	講義	手技療法・運動療法について			
	3	講義	手技療法・運動療法について			
	4	実習	手技療法・運動療法について			
	5	実習	手技療法・運動療法について			
	6	講義	物理療法、電気療法について			
	7	講義	電気療法について			
	8	講義	温熱療法について			
	9	講義	温熱療法について			
	10	実習	温熱療法について			
	11	実習	温熱療法について			
	12	講義	寒冷療法について			
	13	講義	寒冷療法について			
	14	実習	寒冷療法について			
	15	実習	寒冷療法について			
	16	講義	牽引療法について			
	17	講義	牽引療法について			
	18	講義	まとめ			
	19		定期試験			
	20	講義	定期試験解説			
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 / □その他() ※□マークシートを用いる				10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他()				割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
備考						
参考図書	教科書・参考書名		柔道整復学理論編			
	配布資料の有無		㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	生理学Ⅰb	授業方法	講義	講師名	中井 真悟
授業目標	人体の生命現象と正常機能、およびその体系を理解し、生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、各々の生理学的機能について説明できるようにする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、神経系の構成 [生理学4版 神経の生理 P23～42]			
	2	神経の生理①(神経系の構成要素)			
	3	神経の生理②(静止膜電位、活動電位)			
	4	神経の生理③(シナプスにおける興奮伝達、神経伝達物質と受容体)			
	5	神経の生理④(脳の高次機能)			
	6	神経の生理⑤(自律神経)			
	7	神経の生理のまとめ(小テスト)			
	8	運動の生理①(運動の調節、運動神経と運動単位) [運動の生理 P43～58]			
	9	運動の生理②(脊髄による反射とその調節)			
	10	運動の生理③(脳幹による運動調節)			
	11	運動の生理④(高次運動機能)			
	12	運動の生理のまとめ(小テスト)			
	13	感覚の生理①(感覚の一般的な特性) [感覚の生理 P59～82]			
	14	感覚の生理②(特殊感覚:視覚、聴覚、平衡感覚)			
	15	感覚の生理③(特殊感覚:味覚、嗅覚)			
	16	感覚の生理④(体性感覚)			
	17	感覚の生理⑤(内臓感覚、痛覚)			
	18	総まとめ(小テスト)			
	19	後期試験(筆記試験)			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			3割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	臨床柔道整復学 I a	授業方法	講 義	講師名	森田遼介
授業目標	柔道整復師における包帯固定学の知識と基礎包帯の技術の習得を目指す。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション・巻軸帯の巻き方(巻軸包帯の名称、順・逆巻き、表・裏巻き)			
	2	基本包帯法の種類と活用			
	3	固定施術時の配慮(柔整理論 P95～96)			
	4	冠名包帯法の種類と活用			
	5	固定材料(柔整理論 P97、包帯固定学 P2～7)			
	6	固定後の配慮(柔整理論 P98～101)			
	7	問題演習①(予備日)			
	8	問題演習②(予備日)			
	9	前期期末試験			
	10	解答・解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 / □その他() ※□マークシートを用いる			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☑中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書					
	教科書・参考書名		包帯固定学・柔道整復理論		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	臨床柔道整復学 I a	授業方法	講 義	講師名	太田 峽兵
授業目標	大腿部の軟部組織損傷についての理解を深め、今後の認定実技審査への対策を行う。また、軟部組織損傷総論で学んだ内容をもとに、頭部、頸部を含めた体幹部の軟部組織損傷について学習し、同項目について理解し、説明できるようにする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス・前期の復習			
	2	大腿四頭筋打撲			
	3	ハムストリングスの肉ばなれ			
	4	頭部、顔面部の軟部組織損傷			
	5	胸・背部の軟部組織損傷			
	6	腰部の軟部組織損傷			
	7	試験前学習			
	8	試験前学習			
	9	定期試験			
	10	解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			2 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂柔道整復学理論編改訂第 7 版・実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程		担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	臨床柔道整復学 I b		授業方法	講 義	講師名	小松 敏美
授業目標	鎖骨骨折の整復、固定の学びを通し国家試験対策にも繋げることができる。					
実務経験のある 教員等による授業科目						
授業内容 及び進度	回数	講義	項目・内容			
	1	講義	オリエンテーション			
	2	講義	鎖骨について(解剖学をもとに)			
	3	講義	鎖骨骨折について			
	4	講義	鎖骨骨折について			
	5	講義	小テスト(30 点)			
	6	講義	鎖骨骨折整復			
	7	講義	鎖骨骨折整復			
	8	講義	鎖骨骨折 固定材料作成			
	9	講義	鎖骨骨折 固定法			
	10	講義	鎖骨骨折 実技テスト(20 点)			
	11	講義	腱板損傷について			
	12	講義	腱板損傷検査法			
	13	講義	腱板損傷検査法(小テスト)(5 点)			
	14	講義	上腕二頭筋長頭腱損傷について			
	15	講義	上腕二頭筋長頭腱検査法			
	16	講義	上腕二頭筋腱検査法(小テスト)(5 点)			
	17	講義	まとめ			
	18	講義	まとめ			
	19	講義	後期末試験			
	20	講義	解説			
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / ☑実技試験 / □その他() ※□マークシートを用いる			4 割	
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			6 割	
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
備考						
参考図書	教科書・参考書名		柔道整復理論 第 7 版			
	配布資料の有無		㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	1 年
科目名	臨床柔道整復学 I a	授業方法	講 義	講師名	上村 英記
授業目標	頭部・体幹の骨折などの症状などの基礎的な知識だけでなく、臨床家として適切な評価ができるよう実技を通してその診察法や治療法を学ぶ。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション・頭蓋の解剖学復習			
	2	頭蓋の解剖学復習			
	3	頭蓋冠・頭蓋底骨折			
	4	顔面頭蓋骨折			
	5	胸骨骨折 胸椎骨折			
	6	肋骨骨折(特徴・発生机序・症状)			
	7	頸椎骨折			
	8	腰椎骨折			
	9	定期試験			
	10	解答・解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	解剖学・柔道整復学理論編・包帯学			
	配布資料の有無	㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱb	授業方法	講 義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	将来柔道整復師として各傷害に対する後療法施術を行うために、傷害を回復させる過程において、施術概念を高め、その方法を学ぶ。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	ストレッチ①			
	3	ストレッチ②			
	4	ストレッチ③			
	5	まとめ			
	6	下腿・足関節・足底痛に対する徒手療法			
	7	膝痛に対する徒手療法			
	8	大腿四頭筋・ハムストリングスに対する徒手療法			
	9	臀部痛・股関節痛に対する徒手療法			
	10	腰痛に対する徒手療法			
	11	復習			
	12	背部痛に対する徒手療法			
	13	テニス肘・ゴルフ肘・手首痛に対する徒手療法①			
	14	テニス肘・ゴルフ肘・手首痛に対する徒手療法②			
	15	肩痛に対する徒手療法①			
	16	肩痛に対する徒手療法②			
	17	頸部痛・寝違いに対する徒手療法			
	18	総復習			
	19	後期試験			
	20	試験解説・ポイント説明・おさらい			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年		
科目名	一般臨床医学 I	授業方法	講 義	講師名	塚本 輝		
授業目標	視診・触診・問診は柔道整復師の施術においても重要なことであるので、しっかり理解し実践できるようにする。また、診察の基礎を理解した上で呼吸器疾患・循環器疾患について理解する。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス					
	2	診察概論、医療面接					
	3	視診					
	4	打診、					
	5	聴診					
	6	触診					
	7	生命徴候					
	8	感覚検査					
	9	反射検査					
	10	小テスト					
	11	代表的な臨床症状					
	12	検査法					
	13	血液・造血疾患					
	14	〃					
	15	〃					
	16	神経疾患					
	17	〃					
	18	総復習					
	19	後期期末試験					
	20	試験解説					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8 割		
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			2 割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	一般臨床医学 改訂第3版					
	配布資料の有無	㊟ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程		担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	一般臨床医学Ⅱ		授業方法	講 義	講師名	深澤 進次
授業目標	柔道整復師に必要な知識の習得、かつ応用へ繋げられる知識の習得を目指す					
実務経験のある 教員等による授業科目						
授業内容 及び進度	回数	講義	項目・内容			
	1	講義	A 呼吸器疾患 解剖 生理			
	2	講義	特徴的疾患			
	3	講義	B 循環器疾患 解剖 生理			
	4	講義	特徴的疾患			
	5	講義	C 消化器疾患 解剖 生理			
	6	講義	特徴的疾患			
	7	講義	D 肝・胆・膵疾患 解剖 生理			
	8	講義	特徴的疾患			
	9	講義	E 代謝・栄養疾患 解剖 生理			
	10	講義	特徴的疾患			
	11	講義	F 内分泌疾患 解剖 生理			
	12	講義	特徴的疾患			
	13	講義	H 腎・尿路疾患 解剖 生理			
	14	講義	特徴的疾患			
	15	講義	J 感染症・性病			
	16	講義	L 環境要因による疾患			
	17	講義	K リウマチ性疾患			
	18	講義	特徴的疾患			
	19	講義	定期試験			
	20	講義	ポイントの復習			
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 / □その他() ※□マークシートを用いる			10～9 割	
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他()			0～1 割	
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。					
備考						
参考図書	教科書・参考書名		全国柔道整復学校協会 一般臨床			
	配布資料の有無		有 ・ (無)			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年		
科目名	運動学	授業方法	講 義	講師名	内田 全城		
授業目標	解剖学・生理学で学んだ内容を再確認し、身体の正常な動きと病的な動きを鑑別できるようにする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス					
	2	運動学の目的					
	3	運動の表し方					
	4	身体運動と力学					
	5	運動器の構造と機能					
	6	〃					
	7	神経の構造と機能					
	8	〃					
	9	運動感覚					
	10	反射と随意運動					
	11	四肢と体幹の運動					
	12	〃					
	13	〃					
	14	姿勢					
	15	歩行					
	16	運動発達					
	17	運動学習					
	18	総復習					
	19	後期期末試験					
	20	試験解説					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			8 割		
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☒ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☒ マークシートを用いる			2 割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	運動学 改訂第3版					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	高齢者生理学的特徴・変化	授業方法	講 義	講師名	三井 哲雄
授業目標	高齢者の運動の生理学的特徴・変化を学び、運動指導等ができるようになる。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	細胞の老化			
	2	生体膜および細胞内小器官の変化			
	3	体内水分量の変化			
	4	加齢による臓器機能の変化			
	5	高齢期特有の疾患・障害			
	6	歩行機能			
	7	平衡機能			
	8	反応時間			
	9	期末試験			
	10	解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	生理学4版			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	競技者の生理学的特徴・変化	授業方法	講 義	講師名	三井 哲雄
授業目標	競技者の運動の生理学的特徴・変化を学び、運動指導等ができるようになる。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	発育特性			
	2	骨・筋肉系の発育と運動			
	3	呼吸循環系機能と運動			
	4	発育期の運動不足・過運動の影響			
	5	運動の習熟			
	6	スポーツおよびトレーニングによる適応			
	7	競技者の神経機構の特性			
	8	姿勢調節 眼球運動と姿勢制御			
	9	期末試験			
	10	解説			
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	生理学4版			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	社会保障制度	授業方法	講 義	講師名	中村 協
授業目標	医療人としての質を確保することを念頭に、わが国における医療保険制度や医療経済の現状について説明できるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	わが国の社会保障①(社会保障とは)			
	3	〃			
	4	わが国の社会保障②(医療保険制度とは)			
	5	〃			
	6	柔道整復師業務における療養費①(療養費制度の概要)			
	7	〃			
	8	柔道整復師業務における療養費②(療養費請求について)			
	9	〃			
	10	職業倫理①(医療従事者の職業倫理) 中間テスト			
	11	〃			
	12	職業倫理②(柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応)			
	13	〃			
	14	職業倫理③(柔道整復師の社会的責任と対応)			
	15	〃			
	16	まとめ			
	17	〃			
	18	〃			
	19	定期試験			
	20	解説			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	有 ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	柔 道 2	授業方法	実 習	講師名	森山 伸一
授業目標	柔道を通して人として、社会人として、医療人として必要な人格形成を養い、社会貢献できる人物像を形成することを目的とする。また、3 年次に必要となる認定実技審査の出題項目である受身や柔道の投げの形を習得する。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	柔道着の着方・礼法・受け身の復習			
	2	投げの形 浮落・払腰			
	3	投げの形 浮落・払腰			
	4	投げの形 支釣込足・肩車			
	5	投げの形 支釣込足・肩車			
	6	投げの形 背負投			
	7	投げの形 背負投			
	8	投げの形 確認			
	9	前回り受け身・礼法・投げの形 通し			
	10	中間テスト			
	11	投げの形 総復習			
	12	投げの形 総復習			
	13	投げの形 総復習			
	14	投げの形 総復習			
	15	乱取り			
	16	乱取り			
	17	受け身・礼法・投げの形 通し			
	18	受け身・礼法・投げの形 通し			
	19	期末試験			
	20	総評			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			6 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☒ 中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			4 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無		有 ・ ⑥		

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱa	授業方法	実 習	講師名	太田 峽兵
授業目標	1 年次に学んだ総論の知識をもとに各論として軟部組織損傷(下腿～足部)を学習範囲とし、柔道整復師の業を正しく実践できるよう理解を深めていく。同時に、認定実技対策として検査・固定実技を実施し、理論と実技の相関を体感し習熟させていくことを目標とする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 下腿部の軟部組織損傷 アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎 P421～			
	2	アキレス腱断裂 P421～			
	3	アキレス腱断裂の検査法・固定法①(実技 P386～397)			
	4	アキレス腱断裂の検査法・固定法②			
	5	アキレス腱断裂の検査法・固定法③			
	6	下腿三頭筋の肉ばなれ 過労性脛部痛・注意すべき疾患 P422～			
	7	下腿三頭筋肉ばなれの検査法・固定法①(実技 P398～402)			
	8	下腿三頭筋肉ばなれの検査法・固定法②			
	9	下腿三頭筋肉ばなれの検査法・固定法③			
	10	足関節の軟部組織損傷 足関節捻挫①P436～438			
	11	足関節捻挫②P439～441			
	12	足・足趾の軟部組織損傷 P453～457			
	13	足関節外側靱帯の検査法・固定法①(実技 P403～410)			
	14	足関節外側靱帯の検査法・固定法②			
	15	実技試験①			
	16	実技試験②			
	17	期末試験前の復習①			
	18	期末試験前の復習②			
	19	期末試験			
	20	解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			5 割
	定期試験 外評価法	☒ 小テスト / □中間テスト / □発表 ☒ 出席状況 / ☒ 授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			5 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編改訂第6版 実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱb	授業方法	実 習	講師名	松本 展岳
授業目標	軟部組織損傷の各論:最近の国家試験の出題傾向で臨床問題が増えてきています。 柔道整復師の実際の臨床現場でも業務の中心となっていており、この科目の重要性を認識し、また興味を持ってもらえる授業進行をします。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス D 股関節の軟部損傷① P370			
	2	① 鼠径部痛症候群 機能解剖および徒手検査法実技 P370			
	3	⑤ 股関節拘縮 P372			
	4	小テスト及び 手技療法、固定法実技			
	5	E 注意すべき疾患 ① P374			
	6	E 注意すべき疾患 ② 徒手検査法実技			
	7	C 大腿部の軟損 解剖と機能 P380			
	8	D 注意すべき疾患 P383 徒手検査法および固定方実技			
	9	G 膝関節部損傷①P401			
	10	G 膝関節部損傷②			
	11	G③④⑤⑥⑦⑧. 発育期の膝関節障害 P404			
	12	膝損傷小テスト及び固定法、手技療法実技			
	13	C 下腿部の軟損 P421			
	14	D 注意すべき疾患			
	15	下腿部損傷の徒手検査法および固定方実技			
	16	E 足関節部損傷①P436			
	17	E 足関節部損傷②			
	18	G 足趾部損傷 ～P453 徒手検査法および固定法			
	19	後期試験			
	20	解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			7 割
	定期試験 外評価法	☑小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学 ・理論編 第6版			
	配布資料の有無	㊦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	柔道整復実技Ⅱb	授業方法	実 習	講師名	匂坂 文洋
授業目標	足部骨折・下肢脱臼の発生機序から症状及び処置判断を学ぶ。周囲軟部組織損傷(靱帯・腱・筋)との判断及び処置の基礎知識を付け判断能力を高める。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	足根骨骨折 距骨骨折 理論 P432～			
	2	踵骨骨折			
	3	足根骨・足趾部の骨折 舟状骨骨折 理論 P442～			
	4	立方骨骨折 楔状骨骨折			
	5	中足骨骨折 趾骨骨折 実技 P329 P336			
	6	股関節部の解剖と機能 理論 P356～			
	7	股関節脱臼 P366～			
	8	大腿部の解剖と機能 P377 膝関節脱臼			
	9	膝関節脱臼 P397～P399			
	10	〃			
	11	膝蓋骨脱臼			
	12	〃			
	13	足関節部の解剖と機能 P424 足関節脱臼 P436			
	14	〃			
	15	足根部の脱臼 P449			
	16	中足趾関節、趾節間関節脱臼			
	17	後期のまとめ①			
	18	後期のまとめ②			
	19	定期試験			
	20	解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学(理論 6 版・実技 2 版)			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	総合領域Ⅲ	授業方法	講 義	講師名	中村協、森田遼介
授業目標	人体の構造・機能を理解し、一般臨床の機序を説明できるようになる。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、オリエンテーション 森田			
	2	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習① 森田			
	3	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習② 森田			
	4	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習③ 森田			
	5	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習④ 森田			
	6	オリエンテーション 中村			
	7	柔道整復師のための生理学 予習・復習① 中村			
	8	柔道整復師のための生理学 予習・復習② 中村			
	9	柔道整復師のための生理学 予習・復習③ 中村			
	10	柔道整復師のための生理学 予習・復習④ 中村			
	11	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習⑤ 森田			
	12	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習⑥ 森田			
	13	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習⑦ 森田			
	14	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習⑧ 森田			
	15	柔道整復師のための一般臨床 予習・復習⑨ 森田			
	16	柔道整復師のための生理学 予習・復習⑤ 中村			
	17	柔道整復師のための生理学 予習・復習⑥ 中村			
	18	柔道整復師のための生理学 予習・復習⑦ 中村			
	19	前期定期試験 中村			
	20	解答・解説 中村			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表/ ☐ 出席状況 ☐ 授業態度 / その他()			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	「生理学」第 4 版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 全国柔道整復学校協会 一般臨床			
	配布資料の有無	(有)・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	2 年
科目名	病理学概論	授業方法	講 義	講師名	中右 かよ
授業目標	医療従事者として必要な病理学概論の基礎知識の習得、ならびに関連した基礎科目の復習と臨床科目への応用				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	1. 病理学とは 2. 疾病の一般			
	2	3. 細胞障害（退行性病変）			
	3	3. 細胞障害（代謝障害）			
	4	4. 循環障害（血液の循環障害）			
	5	4. 循環障害（リンパ液の循環障害）			
	6	5. 進行性病変と細胞・組織の適応			
	7	6. 炎症			
	8	7. 免疫異常・アレルギー			
	9	7. 免疫異常・アレルギー			
	10	中間試験（講義 1～5の内容）			
	11	8. 腫瘍（腫瘍の概念）			
	12	8. 腫瘍（腫瘍の分類）			
	13	9. 先天性異常（先天性異常、奇形の原因）			
	14	9. 先天性異常（奇形の成立時期、奇形の種類）			
	15	10. 病因（内因）			
	16	10. 病因（外因）			
	17	11. 運動器の病理(A～D)			
	18	11. 運動器の病理(E～H)			
	19	後期定期試験			
	20	解説			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。（複数可）			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他（ ）			7 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / ☑中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他（ ） ※□マークシートを用いる			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 病理学概論 改正第3版			
	配布資料の有無	㊟ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔 整	担当学年	2 年
科目名	臨床実習	授業方法	実 習	講師名	森田遼介
授業目標	臨床実習に向けて臨床を学ぶ視点や、患者対応について考えられるようにする。また外部臨床実習をより意義のあるものにするために準備を行う。				
実務経験のある教員 等による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	臨床実習準備			
	2	臨床実習準備			
	3	臨床実習準備			
	4	臨床実習			
	5	臨床実習			
	6	臨床実習			
	7	臨床実習			
	8	臨床実習			
	9	臨床実習			
	10	臨床実習			
	11	臨床実習			
	12	臨床実習			
	13	臨床実習			
	14	臨床実習			
	15	臨床実習			
	16	臨床実習			
	17	臨床実習			
	18	臨床実習			
	19	定期試験(レポート)			
	20	臨床実習			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 ☑その他(レポート)			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表/☑出席状況 □授業態度 / その他()			10 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名				
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	小松 敏美
授業目標	柔道整復学、認定実技における上・下肢の損傷(肩腱板/上腕二頭筋長頭腱/ハムストリングス/大腿四頭筋/膝関節側副靱帯・十字靱帯・半月板・下腿三頭筋・足関節外側靱帯損傷)実技 柔整(骨折・脱臼・軟損)の理解および応用ができるようにする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	軟部組織損傷総論①			
	2	軟部組織損傷総論②			
	3	軟損各論(頭部 体幹)			
	4				
	5	軟損各論(上肢)			
	6				
	7				
	8	軟損各論(下肢)			
	9				
	10				
	11	柔整総合			
	12				
	13				
	14	定期試験			
	15	解説			
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	☑筆記試験 / □実技試験 □その他()			10 割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復実技編改訂第2 版			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	授業方法	講 義	講師名	太田 峯兵		
授業目標	柔道整復学の知識と理解をより深めていくために必要な解剖学と生理学を主軸に講義を進めていく。理解度を高めていき、国家試験対策につなげていく。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	柔道整復術の為の基礎解剖学 神経系①					
	2	柔道整復術の為の基礎生理学 神経系①					
	3	柔道整復術の為の基礎解剖学 神経系②					
	4	柔道整復術の為の基礎生理学 神経系②					
	5	柔道整復術の為の基礎解剖学 泌尿器系					
	6	柔道整復術の為の基礎生理学 泌尿器系					
	7	柔道整復術の為の基礎解剖学 生殖器系					
	8	柔道整復術の為の基礎生理学 生殖器系					
	9	柔道整復術の為の基礎解剖学 内分泌系					
	10	柔道整復術の為の基礎生理学 内分泌系					
	11	柔道整復術の為の基礎解剖学 体表解剖					
	12	柔道整復術の為の基礎生理学 体液系					
	13	総復習					
	14	期末試験					
	15	解説					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()			10 割		
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☐ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復実技編改訂第 2 版					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	太田 峽兵		
授業目標	柔道整復師が扱う外傷・障害に対し必要な知識・診察及び検査法や固定の基本的技術獲得を目標とする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス、軟部損傷の診察及び検査法①					
	2	軟部損傷の診察及び検査法②					
	3	軟部損傷の診察及び検査法③					
	4	軟部損傷の診察及び検査法④					
	5	軟部損傷の診察及び検査法⑤					
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復実技編改訂第2版					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	匂坂 文洋		
授業目標	柔道整復術の整復・固定の練習を実施し臨床の場で活かすことができる。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	上肢の骨折、脱臼に対する整復、固定					
	2	下肢の軟部組織損傷に対する検査、固定					
	3	上肢の軟部組織損傷に対する検査、固定					
	4	総合復習1					
	5	総合復習2					
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			10 割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名						
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	小松 敏美
授業目標	柔道整復学、認定実技における上・下肢の損傷(肩腱板/上腕二頭筋長頭腱/ハムストリングス/大腿四頭筋/膝関節側副靱帯・十字靱帯・半月板・下腿三頭筋・足関節外側靱帯損傷)実技 柔整(骨折・脱臼・軟損)の理解および応用ができるようにする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	肩腱板損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷			
	2	ハムストリングス損傷 大腿四頭筋打撲			
	3	膝関節損傷(側副靱帯・十字靱帯・半月板)			
	4	下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)足関節外側靱帯損傷			
	5	軟部組織損傷診察および検査実技			
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復実技編改訂第 2 版			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業方法	実 習	講師名	太田 峯兵		
授業目標	柔道整復学必修範囲を主軸として実技を行う。認定実技対策や口述試験対策を行う。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス 肩鎖関節上方脱臼の整復と固定					
	2	肩関節前方脱臼の整復と固定					
	3	肘関節後方脱臼の整復と固定					
	4	肘内障の整復と固定					
	5	手第2指 PIP 関節背側脱臼の整復と固定					
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / ☒ 実技試験 □その他()			10 割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復実技編改訂第2版					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	浦田 輝彦
授業目標	病理学、リハビリ医学、整形外科を主軸として、包括的な確認と復習を実施する。国家試験出題基準に沿った目線で当該教科の理解を深めることにより、国試での点数向上をねらいとする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス・柔道整復師の為の病理学①			
	2	柔道整復師の為の病理学②			
	3	柔道整復師の為の病理学③			
	4	柔道整復師の為の病理学④			
	5	柔道整復師の為の病理学⑤			
	6	柔道整復師の為の病理学⑥			
	7	柔道整復師の為のリハビリテーション医学①			
	8	柔道整復師の為のリハビリテーション医学②			
	9	柔道整復師の為のリハビリテーション医学③			
	10	柔道整復師の為のリハビリテーション医学④			
	11	柔道整復師の為のリハビリテーション医学⑤			
	12	柔道整復師の為のリハビリテーション医学⑥			
	13	柔道整復師の為の整形外科①			
	14	柔道整復師の為の整形外科②			
	15	柔道整復師の為の整形外科③			
	16	柔道整復師の為の整形外科④			
	17	柔道整復師の為の整形外科⑤			
	18	総復習			
	19	総復習			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	医歯薬出版株式会社 病理学改訂第 3 版・リハビリテーション医学改訂第 4 版・南江堂 整形外科改訂第 4 版			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	浦田 輝彦
授業目標	出題基準をもとに、必修問題出題範囲の包括的な確認と復習を行う。また、これまでに学んできた他の教科の知識との相関を確認し理解を深めることで、国家試験での点数向上をねらいとする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業ガイダンス・必修対策:上肢の骨折①			
	2	必修対策:上肢の骨折②			
	3	必修対策:上肢の骨折③			
	4	必修対策:上肢の骨折④			
	5	必修対策:上肢の脱臼①			
	6	必修対策:上肢の脱臼②			
	7	必修対策:上肢の軟部組織損傷①			
	8	必修対策:上肢の軟部組織損傷②			
	9	必修対策:下肢の軟部組織損傷①			
	10	必修対策:下肢の軟部組織損傷②			
	11	必修対策:下肢の軟部組織損傷③			
	12	必修対策:下肢の軟部組織損傷④			
	13	必修対策:関係法規・職業倫理・社会保障制度①			
	14	必修対策:関係法規・職業倫理・社会保障制度②			
	15	必修対策:関係法規・職業倫理・社会保障制度③			
	16	必修対策:関係法規・職業倫理・社会保障制度④			
	17	必修対策:柔道について			
	18	総復習			
	19	総復習			
	20	まとめ			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂柔道整復学理論編改訂第7版・実技編改訂第2版			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年
科目名	総合領域Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	森田 遼介
授業目標	臨床上遭遇しやすい内科疾患を理解するための基礎学力向上を目的とする。また、施術所の衛生面に関しての知識を深めより良い治療環境を作ること为目标とする。				
実務経験のある教員等 による授業科目					
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション・問題演習			
	2	問題演習			
	3	感染症対策について			
	4	消毒法について			
	5	外部環境について			
	6	“健康”とは			
	7	健康の測定について			
	8	疫学について			
	9	テスト			
	10	基礎教科復習①			
	11	基礎教科復習②			
	12	基礎教科復習③			
	13	基礎教科復習④			
	14	基礎教科復習⑤			
	15	基礎教科復習⑥			
	16	基礎教科復習⑦			
	17	基礎教科復習⑧			
	18	医療圏について			
	19	医療保険制度について			
	20	問題演習			
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	生理学・衛生学			
	配布資料の有無	⑦ ・ 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	総合領域Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	波多野 晃岐		
授業目標	柔道整復師に必要な骨、筋、脈管を理解し、臨床や国家試験に必要な知識を習得する。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス、骨格の概要					
	2	骨の連結					
	3	全身の骨格(頭蓋、脊柱、胸郭)					
	4	上肢の骨格					
	5	下肢の骨格					
	6						
	7	骨格筋の概要					
	8	頭部の筋、頸部の筋、胸部の筋					
	9	腹部の筋、背部の筋					
	10	上肢の筋					
	11	下肢の筋					
	12						
	13	脈管系(脈管系の概要)					
	14	心臓、大動脈と頭部の動脈					
	15	上肢の動脈					
	16	下肢の動脈					
	17	静脈					
	18	門脈、胎児の循環					
	19	リンパ系					
	20	まとめ					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	解剖学 改訂第2版					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	総合領域Ⅳ	授業方法	講 義	講師名	森山 伸一		
授業目標	前段は実技認定試験に向けての対策、後段は国家試験に向け受験科目である整形外科学、外科学、一般臨床医学の対策を行い試験に必要な知識を再確認することを目的とする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	実技対策 1					
	2	実技対策					
	3	実技対策					
	4	総合復習1					
	5	総合復習2					
	6	柔道整復術における外科学(損傷、炎症と外科感染症)					
	7	柔道整復術における外科学(腫瘍、ショック)					
	8	柔道整復術における外科学(輸血輸液、消毒と滅菌)					
	9	柔道整復術における外科学(手術 麻酔)					
	10	柔道整復術における外科学(移植と免疫、出血と止血)					
	11	柔道整復術における外科学(心肺蘇生法)					
	12	柔道整復術における整形外科学(疾患別各論、A 感染性疾患、B 骨腫瘍)					
	13	柔道整復術における整形外科学(C 非感染性軟部、骨関節疾患)					
	14	柔道整復術における整形外科学(D 全身の骨、軟部疾患 E 骨端症)					
	15	柔道整復術における整形外科学(F 四肢循環障害 G 神経麻痺と絞扼性神経障害)					
	16	柔道整復術における整形外科(G 神経麻痺と絞扼性神経障害)					
	17	柔道整復術における一般臨床医学に対する考え方					
	18	柔道整復術における一般臨床医学に対する考え方					
	19	総合復習					
	20	講義総括					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名						
	配布資料の有無		⑦ ・ 無				

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	授業方法	講 義	講師名	匂坂 文洋		
授業目標	臨床の場で活用できる知識を得、柔道整復師としての基礎知識を再確認し 3 年間の集大成とする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	柔整骨折 総論					
	2	柔整骨折 総論					
	3	柔整骨折 総論					
	4	柔整脱臼 総論					
	5	柔整脱臼 総論					
	6	柔整脱臼 総論					
	7	柔整軟損 総論					
	8	柔整軟損 総論					
	9	柔整軟損 総論					
	10	柔整下肢骨折 各論					
	11	柔整下肢骨折 各論					
	12	柔整下肢骨折 各論					
	13	柔整下肢骨折 各論					
	14	柔整下肢骨折 各論					
	15	柔整下肢骨折 各論					
	16	柔整 下肢脱臼 各論					
	17	柔整 下肢 脱臼 各論					
	18	柔整 下肢 脱臼 各論					
	19	後期まとめ					
	20	後期 まとめ					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()		割			
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 ☑出席状況 / ☑授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる		10 割			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	授業方法	講 義	講師名	波多野 晃岐		
授業目標	柔道整復師が扱う外傷・障害に対し必要な知識・診察及び検査法や固定の基本的技術獲得を目標とする。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	ガイダンス、軟部損傷の診察及び検査法①					
	2	軟部損傷の診察及び検査法②					
	3	軟部損傷の診察及び検査法③					
	4	軟部損傷の診察及び検査法④					
	5	軟部損傷の診察及び検査法⑤					
	6	肩部の軟部損傷(P245～256) 腱板損傷、上腕二頭筋損傷					
	7	スポーツ損傷、ベネット、SLAP 損傷など					
	8	肘関節部軟部損傷(P283～P287) 野球肘、テニス肘など					
	9	前腕部の軟部損傷(P299～P304) 前腕コンパートメント症候群、末梢神経障害					
	10	手関節部の軟部損傷(P312～P325)					
	11	TFCC 損傷、末梢神経障害、キーンベック病など					
	12	手部・指部の軟部損傷(P344～P350) 腱、靱帯の損傷など					
	13	股関節部の軟部損傷(P370～377)					
	14						
	15	大腿部の軟部損傷(P380～383)					
	16	下腿部の軟部損傷(P421～424)					
	17	足部の軟部損傷(P437～P441、P449～451、435～457)					
	18						
	19						
	20	解説・採点のポイント説明					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	□筆記試験 / □実技試験 □その他()			割		
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他() ※□マークシートを用いる			割		
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔整整復学 理論編・実技編					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3 年		
科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	授業方法	講 義	講師名	上村 英記		
授業目標	柔道整復学の上肢骨折と脱臼を網羅的に理解し、臨床的能力を高めることができる。						
実務経験のある教員等 による授業科目							
授業内容 及び進度	回数	項目・内容					
	1	上肢の骨折と脱臼の理解と応用①					
	2	上肢の骨折と脱臼の理解と応用②					
	3	上肢の骨折と脱臼の理解と応用③					
	4	上肢の骨折と脱臼の理解と応用④					
	5	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑤					
	6	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑥					
	7	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑦					
	8	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑧					
	9	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑨					
	10	中間試験					
	11	試験フィードバック，上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑩					
	12	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑪					
	13	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑫					
	14	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑬					
	15	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑭					
	16	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑮					
	17	上肢の骨折と脱臼の理解と応用⑯					
	18	柔道整復師に必要な知識の整理⑰					
	19	定期試験					
	20	試験フィードバック					
成績評価 の方法			該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)		評価割合		
	定期試験 評価法	☒ 筆記試験 / ☐ 実技試験 ☐ その他()		5 割			
	定期試験 外評価法	☐ 小テスト / ☒ 中間テスト / ☐ 発表 ☐ 出席状況 / ☐ 授業態度 / その他() ※ ☐ マークシートを用いる		5 割			
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。						
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論編					
	配布資料の有無	⑦ ・ 無					

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある